

# 高等学校 新地理 A

世界各地に暮らす人々の姿と、最新情勢が見えてくる！

## 地理 A 教科書の決定版

### 特色1 ビジュアルな資料とともに、地域の特色と最新動向がわかる充実の地誌

- ・人々の営みや地域の姿が見えてくる！各地域の導入ページと写真・資料……………2
- ・産業・経済の最新動向の理解が深まる！国単位の具体事例を増強！……………4
- ・諸地域の様相が一層わかる！各地域と「日本とのかかわり」のコラムを強化！……………12
- ・体系的な理解がすすむ！風土と歴史的背景をふまえた地誌の展開……………14

### 特色2 丁寧な記述と豊富な図版・写真で理解がすすむ系統地理

- ・視覚的に理解できる！丁寧な解説と模式図・写真でよくわかる地形……………16
- ・人々の生活が見えてくる！臨場感あふれる資料で学べる気候……………20

### 特色3 学びやすく理解が深まる見開きの誌面構成……………22

### 特色4 GISや電子地形図の活用まで着実に習得できる地理的技能……………24

### 特色5 災害発生メカニズムから具体的な対策まで、総合的に学べる防災……………28

教科書の全体構成……………32

ユニバーサルデザインに対応……………34

授業への万全のサポート……………35

諸地域への興味とイメージがわく！ 観光地の写真を中心にした地域の導入ページ

いきいきとした人々の営みが見える！ 各見開き冒頭の写真・資料

例) ヨーロッパ地誌 - 導入ページ - p.104

例) ヨーロッパ地誌 - 歴史・文化 - p.106



冒頭では、  
ビジュアル  
力ある写真  
で、地域の  
自然環境や  
生活・文化  
がわかる！



▲ ①教会前の広場で開かれるクリスマスマーケット(ドイツ、ニュルンベルク) ドイツではクリスマスが近づくと、広場などでクリスマスマーケットが開かれ、クリスマスのかざり物や菓子などを買う人々にぎわう。中央の教会はゴシック建築で知られる。

▲ ①アルプス山脈のふもとでハイキングを楽しむ人々(スイス、ツェルマット、2013年7月撮影) 4000m級の山々の眺望が楽しめるツェルマットは、夏は美しい高山植物をながめながらのハイキング、冬はスキーリゾートなどで人気がある。



ヨーロッパの屋根  
アルプスを歩く

アルプス山脈が連なるスイスでは、山岳鉄道やロープウェイなど、山岳観光をするための交通機関が発達している。なかでも有名な氷河特急に乗って、終点のツェルマットの駅に降り立つと、マッターホルンの壮大な姿に圧倒された。街を歩いてみると、立ち並ぶ大きな木組みの家々の窓辺に花がかざられ、美しい風景をつくり出していた。

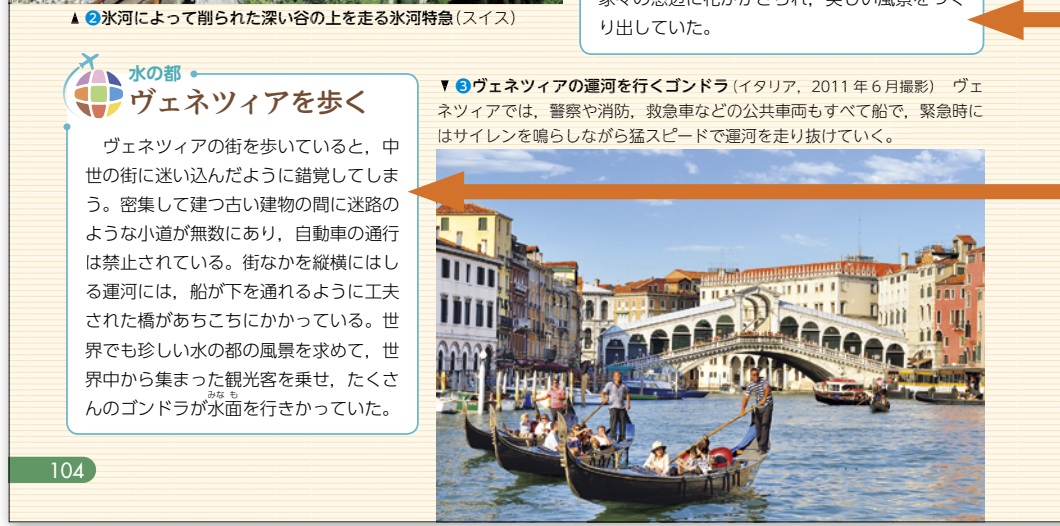
「現地リポート」で、  
現地に暮らす人の生活  
がわかる！

現地リポート  
生活に深く根づいたキリスト教

ドイツの街を歩くと、教会とその前の広場を中心として、街なみが広がっていることに気づく。クリスマスやイースター(復活祭)など、キリスト教にかかわる重要な行事のときには、ドイツ全土が祝日となり、家族そろって過ごすのが習慣らしい。教会では大勢の人々が集まって、賛美歌を歌い、祈りをささげる。こうした行事以外でも、人々は普段から聖書を読み、日曜日には教会で開かれる礼拝に参加する。結婚式や葬儀など、人生の節目となる儀式も多くが教会で行われ、キリスト教は、人々の暮らしにとけ込んだ文化であり続けている。



▲ ②教会で行われるクリスマス礼拝のようす(ドイツ、ベルリン、2010年12月24日撮影)



水の都  
ヴェネツィアを歩く

ヴェネツィアの街を歩いていると、中世の街に迷い込んだように錯覚してしまう。密集して建つ古い建物の間に迷路のような小道が無数にあり、自動車の通行は禁止されている。街なかを縦横にはしる運河には、船が下を通れるように工夫された橋があちこちにかかっている。世界でも珍しい水の都の風景を求めて、世界中から集まった観光客を乗せ、たくさんの gondola が水面を行きかっていた。

▼ ③ヴェネツィアの運河を行くゴンドラ(イタリア、2011年6月撮影) ヴェネツィアでは、警察や消防、救急車などの公共車両もすべて船で、緊急時にはサイレンを鳴らしながら猛スピードで運河を走り抜けていく。

旅行記仕立てのコラムで、その  
地域に行ってみたくな  
地域の姿が  
わかる！

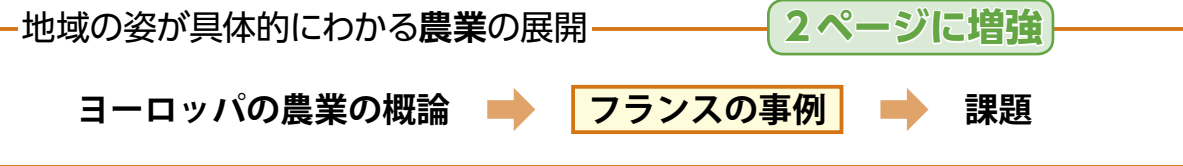
2 ヨーロッパの歩みと文化

ヨーロッパでは、古代ギリシャとローマの文化を受け継ぎ、キリスト教と深く結びついた文化が発展した。大聖堂に代表されるゴシック様式の建築をはじめ、絵画や音楽、思想や文学など幅広い分野にわたって、キリスト教は大きな影響をもたらしてきた。キリスト教の宗派は、大きく三つに分けられる。イギリスやドイツ北部、北ヨーロッパではプロテスタントが多く、イタリアやスペイン、フランスなど南ヨーロッパではカトリックが一般的である。また、ロシアやブルガリアなど東ヨーロッパでは正教会がおもに信仰されている。20世紀後半には、イスラム圏から多くの人がヨーロッパに働きに来て、定住した。このため現在は、ヨーロッパの各地にムスリムが暮らしている。

リード  
ヨーロッパは、どのような歴史を歩んで現在にいたっているのだろうか。キリスト教による共通性や、宗派・言語の多様性に注目してみよう。

東南アジア・ヨーロッパ・アングロアメリカ・ラテンアメリカを平成25年度版教科書より2ページずつ増やしました。

	農業	工業	経済	結びつき
東南アジア	タイp.80	シンガポール・マレーシア・タイp.82-83	インドネシアp.84	
ヨーロッパ	フランスp.110	ドイツ・イタリアp.113		
アングロアメリカ	アメリカ合衆国p.126	アメリカ合衆国p.128		カナダp.130
ラテンアメリカ	※農業・工業を各1ページ増やし、全体的に記述を補強		ブラジルp.139	



例) ヨーロッパ地誌  
—農業— p.110-111

**概論**

ヨーロッパで営まれている農業の特徴と、それがどのような地域でさかんでいるのか、概要をつかめます。



**4 ヨーロッパの農業と共通農業政策**

**リード**  
ヨーロッパの農業にはどのような特徴があるのか、自然環境との関係に注目してみよう。また、ヨーロッパの農業が抱える課題とEUの農業政策にも注目してみよう。

**自然環境に対応した農業**  
ヨーロッパでは、地形や気候など、地域ごとに異なる自然環境に対応して、特徴ある農業が営まれている。地中海性気候の地中海沿岸部では、夏の高温と乾燥に強いオリーブや、レモンなどの柑橘類、コルクがしなどの樹木作物、冬の雨を生かした冬小麦などを栽培する**地中海式農業**が行われている。西岸海洋性気候の北西ヨーロッパや亜寒帯気候の東ヨーロッパでは、小麦やじゃがいも、ライ麦などの食料のほかに、大麦やえん麦、てんさいなどの飼料作物の栽培と豚や肉牛の飼育を組み合わせた**混合農業**が発達している。一方、イギリスやオランダなど、冷涼な気候とやせた土壌のために穀物栽培にあまり適していない地域では、牧草を栽培して乳牛を飼育する**酪農**がさかんで、アルプス山脈の山岳地などでは伝統的な**移牧**もみられる。このほかにも都市近郊では、オランダの花弁栽培に代表されるように、野菜や花卉などを生産する**園芸農業**がさかんである。



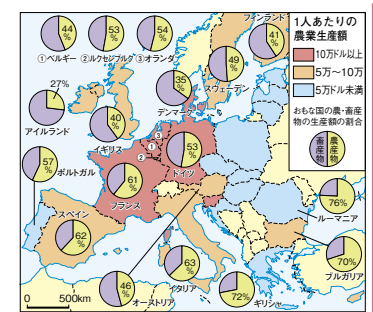
▲ ④ 冬は山のふもとで舎飼いをし、気温が上がる夏の期間は標高の高い牧草地に家畜を移動させて放牧する牧畜。

**クローズアップ EU が取り組む食品の品質認証制度**

EUでは、農業政策の一環として、農産物の品質を認証する制度をつくり、域内で生産された農産物・食品のブランド化をおし進めている。フランスのシャンパン、オランダのゴダーチーズ、スペインのイベリコ豚などに代表されるヨーロッパの伝統的食品は、特定の地域でのみ入手できる特定の原材料を使用して、長い歴史のなかでつちかわれてきた製法で生産されている。これらの食品にEUの品質認証マークをつけて原材料や製造方法の品質・安全を保証し、高い付加価値をつけることで、地域ごとに個性をもつ農業と食品製造の保護・継承をめざしている。

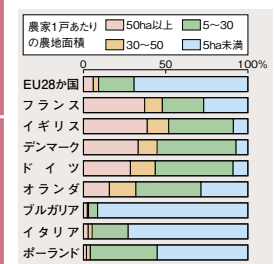


クローズアップコラムでさらに深める！  
食品の品質認証制度を紹介しています。



国で、地中海沿岸やロース川、ガロンヌ川流域などには、ぶどう栽培とワイン生産に特化した地域がみられる。これらの地域では、その土地の自然環境に合った品種のぶどうが栽培され、地域ごとに味わいの異なるワインが生産されて、世界各地に輸出されている。

**共通農業政策とその課題**  
EUでは、農産物市場も統一されたが、国によって農業の経営規模が異なり、生産コストに差があるという課題があった。そこで、主要な農産物には統一価格を設定して買い支え、域外からの輸入農産物には関税をかけるという**共通農業政策**がとられてきた。これにより、生産性の低い国の農業は保護され、生産性の高い国の農業は発展してきた。しかし、農産物の生産過剰や、多額の補助金が大きな財政負担となるなどの問題が生じた。このため2003年からは、基準を満たす農家に個別に補助金を出す方式に転換し、農村の基盤整備などに補助金の多くが当てられるようになった。2004年以降、農業国が多い東ヨーロッパ諸国がEUに加盟したことで、新規加盟国への補助金がEUの財政を圧迫するようになり、さらなる政策の見直しも進められている。



**チェック**  
1) ヨーロッパの農業の特徴を自然環境と関連させてまとめてみよう。  
2) EUが抱える農業の課題と対策について説明してみよう。

ヨーロッパの農業が抱える課題  
EUが拡大したことで生じる農業の問題や、課題などを記述しています。

**フランスを事例に**

EUの中で最も農業生産額が多いフランスを事例に、農業の特色やヨーロッパにおける位置づけを記述しています。

例) ヨーロッパ地誌 -工業- p.112-113

地域の姿が具体的にわかる工業の展開

2ページに増強

ヨーロッパの工業の概論 → ドイツの事例 + イタリアの事例

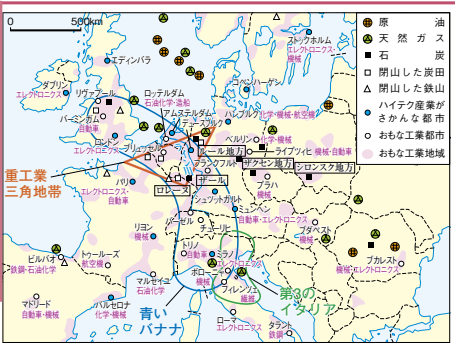


①臨海部に立地する石油化学コンビナート(オランダ、ロッテルダム、2013年撮影) ライン川の河口に位置するロッテルダムには、石油精製工場や石油貯蔵施設が集積し、ここからルール地方やドイツ南部の工業都市へパイプラインで原油が輸送されている。



自社撮影

②自動車の生産ライン(ドイツ、ライプツィヒ、2010年撮影) 部品の納入がコンピュータ管理されているため、一つのラインでさまざまな車種の組み立てができる。



③ヨーロッパ中心部の鉱工業(Diercke Weltatlas 2008、ほか)

概論

重工業発展の歴史的経緯や、石油化学工業立地の背景、さらに先端技術産業の成長と、工業の種類と工業地域の変容がたどれます。

5 ヨーロッパの工業とその変化

リード ヨーロッパではどのような工業がさかんなのか、工業化の歴史や工業地域の変化に注目しながらみていこう。

- ① この地域は、いくつもの大都市と発達した交通網を有し、ヨーロッパでも高い経済水準にある。青いバナナという名称は、この地域を地図で見るとバナナのような形であること、EUのシンボルカラーの青色にちなんでいる。
- ② 集積回路(IC)・大規模集積回路(LSI)などの半導体やコンピュータなど、電子(エレクトロニク)のはたらきを利用した機器を製造する工業のこと。

ヨーロッパ全体の工業の概論

NEW

クローズアップ 国際分業で製造されるヨーロッパの航空機

ヨーロッパには、EU各国の企業が共同で設立した航空機メーカーのエアバス社がある。エアバス社は現在、早くから航空機製造で強い力をもっていたアメリカ合衆国のボーイング社と世界市場を二分するまでに成長し、その機体は日本をはじめ、世界の航空会社で広く使われている。エアバス社の航空機は、イギリス、フランス、ドイツ、スペインなど、EU各国の企業が分担して製造した翼や胴体などの部品を、フランスのトゥールーズやドイツのハンブルクにある組み立て工場に集め、完成品に仕上げること輸出されている。近年は、部品の製造に参加する企業がヨーロッパ以外にも広がっており、日本の企業も、軽量で高強度な機体の素材をはじめ、離発着時の衝撃や温度変化に強いタイヤなど、高い技術を提供している。



④組み立て工場に空輸されてきた航空機部品(ドイツ、ハンブルク) エアバス社には、航空機の大きな部品を輸送するための専用貨物機があり、各国で生産された部品を組み立て工場に空輸している。

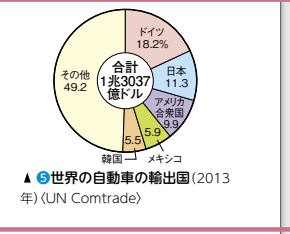
クローズアップコラムでさらに深める！ 航空機の国際分業を紹介しています。

NEW

EU最大の工業国ドイツ

古くから物づくりを大切にしてきたドイツは、EU最大の工業国である。ドイツがヨーロッパの工業をリードする存在となった背景には、戦前から積み重ねられてきた工業技術の高さと、さまざまな業種の見本市(メッセ)などをさかんに開いて貿易の拡大に努めてきたことがある。自動車・医薬品・精密機械などが現在のドイツの基幹産業であり、とくに自動車は、世界第1位の輸出額を誇る。ミュンヘンやシュツットガルトなどの都市には、世界的な自動車メーカーが拠点を置いている。

ヨーロッパ屈指の重工業国として発展してきたドイツは、ライン川の水質汚濁や酸性雨による森林破壊など、さまざまな環境問題に早くから直面した。このため、自動車などの工業製品にリサイクル可能な部品が早くから導入され、再生可能エネルギーによる発電が速いスピードで普及するなど、環境技術でも進んだ国になっている。



⑤世界の自動車の輸出額(2013年)(UN Comtrade)

ドイツを事例に EU最大の工業国であるドイツを事例に、工業の特色やヨーロッパにおける位置づけを記述しています。

NEW

ブランド力を高める伝統産業

ヨーロッパでは、大規模な工業化が進む一方で、熟練の職人の手作業による小規模な伝統的工業も、各地で継承されてきた。靴やバッグなどの革製品をはじめ、服飾品や陶磁器、ガラス製品、家具、時計、楽器など、高い技術を生かしてつくられる高級品の数々は、今や世界的なブランドへと成長している。とくにイタリアでは、ボローニャやフィレンツェを中心とした地域に、中小企業が経営するこれらの地場産業が集中する。イタリア北部の重工業地帯、南部の農業地帯に並ぶ重要な産業地帯であることから、この中部から北東部にかけての地域は第3のイタリアとよばれ、ここから世界へ多くのブランド品が輸出されている。



⑥ブランド品のバッグの製造(イタリア、フィレンツェ郊外)

イタリアを事例に 大規模な工業だけでなく、ブランド力を高める伝統産業について、イタリアを事例に具体的に記述しています。

チェック 1) 図⑥から、石油化学工業がさかんな都市と、エレクトロニクス産業がさかんな都市をそれぞれあげてみよう。 2) 伝統的工業で生産されるヨーロッパのブランド品について調べてみよう。

例) 東南アジア地誌 - 工業 - p.82-83

ー経済発展・生活の変化ー p.84-85

地域の姿が具体的にわかる工業・経済

NEW

シンガポールを事例に

最も早く工業化に成功したシンガポールを事例に、工業化が進んだ背景や、成長のようすを具体的に記述しています。

マレーシア・タイを事例に

シンガポールに続いて工業化が進んだマレーシアやタイを事例に、各々の国でどのように工業化を進めたかを記述しています。

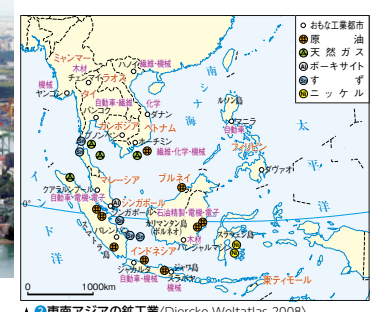
インドネシアを事例に

多くの人口を抱え、魅力的な市場として注目されているインドネシアを事例に、外国企業が積極的に工場を進出させている新しい動きがわかります。

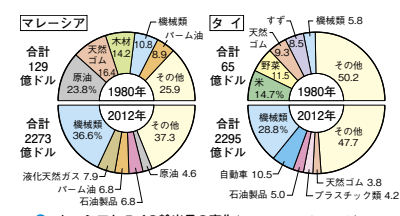
NEW



▲1 コンテナ埠頭と金融地区の高層ビル群 (シンガポール) シンガポールは、世界の中継貿易港として栄えてきた。



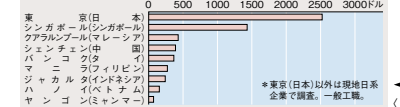
▲2 東南アジアの鉱工業 (Diercke Weltatlas 2008)



▲3 マレーシアとタイの輸出品の変化 (UN Comtrade, ほか)



▲4 タイに進出した日本の自動車メーカーの組み立て工場 (タイ、ラヨン近郊、2012年撮影) 日本の自動車メーカーの組み立て工場がある工業団地には、自動車部品の工場も日本から多数進出している。



▲5 日本の進出企業 (製造業) の月額賃金の比較 (2013年) (JETRO 資料)

これらの企業に資金を調達する世界の主要銀行が集まり、世界の金融センターの一つとしての役割をもつ国に成長している。

各国の工業化とASEANの市場統合 シンガポールに続いて工業化が進んだのは、マレーシアとタイである。マレーシアは、各地に設けた輸出加工区に外国企業を誘致し、半導体生産の集積地をつくるなどして、電機・電子産業を発達させた。タイは、衣料品などの軽工業から工業化を始め、現在は自動車産業の育成に力を入れている。技術力の高い地元の部品メーカーも育ててきた現在のタイには、日本をはじめ世界の自動車メーカーが進出している。

このように東南アジア各国の中心工業は、設備の整った工場や熟練した労働者を必要とする工業へとしだいに変化してきた。また、労働者の賃金が高くなるにつれて、外国企業の工場の出先は、シンガポール、マレーシア、タイから、賃金水準がより低いインドネシア、さらにドイモイ (刷新) とよばれる市場開放政策で経済が活気づいたベトナムへと移ってきた。最近では、政治が安定して工業団地の整備が進み始めたミャンマーにも注目が集まっている。

1993年には、ASEANを母体とするASEAN自由貿易地域 (AFTA) が発足し、日本や中国、インド、オーストラリアなどとASEAN諸国とのFTAやEPAの締結も行われてきた。また、2015年には域内の関税の完全撤廃などをめざしたASEAN経済共同体 (AEC) が発足した。これらの動きを受け、各国の国内市場向け製品をつくらせていた外国企業は、東南アジアの工場をASEAN域内とともに域外への輸出拠点としても位置づけるなど、変化が生じてきている。

1 積極的な工業化政策によって、1970年代以降、急速な経済発展をとげた韓国・台湾・香港 (香港)・シンガポールのこと。

2 銀行などの金融機関が集まって、証券や外国為替などの取引の中心になる都市のこと。



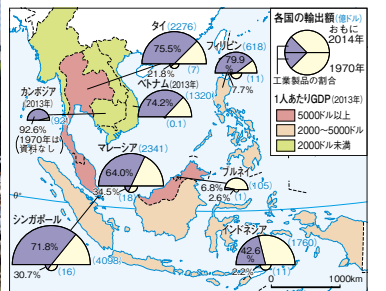
▲6 日系の縫製工場 (ミャンマー、ヤンゴン、2012年撮影)

3 社会主義体制を維持しつつ、市場経済化と対外開放をおし進める政策のことで、1986年から始められた。ドイモイはベトナム語で「刷新」を意味する。

- チェック 1) 図④を見て、工業化の進展により、マレーシアとタイの輸出品や輸出額がどのように変化したのか、確認してみよう。 2) 輸出加工区とはどのようなものか、説明してみよう。



▲7 ジャカルタの交通渋滞 (インドネシア、2011年撮影) 真のような深刻な交通渋滞に悩まされている。



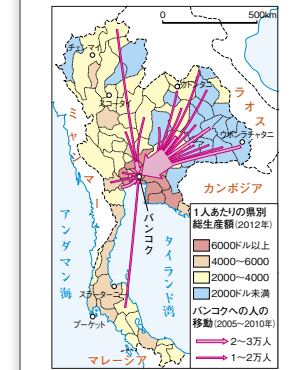
▲8 ASEAN諸国の1人あたりGDPと経済成長 (UN Comtrade, ほか)

5 東南アジアの経済発展と生活の変化

東南アジアの国々では、経済発展によって人々の生活にどのような変化が現れているのだろうか。人口の動きや都市問題に注目しながらみていこう。

インドネシアの首都ジャカルタでは、急速に自動車普及したことによる深刻な交通渋滞が大きな問題となっている。渋滞していなければ10分で移動できる距離に、1時間以上かかることも珍しくなく、道路を埋めつくす自動車の排ガスによる大気汚染も問題になっている。中国、インド、アメリカ合衆国について世界で4番目に人口が多いインドネシアは、2.4億以上の大きな人口をもつことから、ASEAN諸国のなかでは最も魅力的な市場として、世界の注目を集めている。ジャカルタから東にのびる高速道路沿いや、シンガポールに隣接するパタム島には、工業団地が集中しており、これらの地域に東南アジアの量産拠点として工場を進出させる自動車・家電製品などの外国企業が増えている。

ASEAN諸国で進められてきた工業化は、多くの工業団地が各国の首都をはじめとする都市の周辺に集中したことによって、急速な都市圏の拡大をもたらした。工場などでの雇用が大幅に増えた都市部では、中所得層の人々が経済力をもつようになり、自動車や冷蔵庫、エアコンといった耐久消費財を購入する世帯が増えている。大都市の中心部には高層ビルが林立し、冷房のきいた大型のショッピングセンターやコンビニエンスストアなどがみられるようになった。このように、都市部の生活が近代化されてきた一方で、農村部では就業機会が乏しく所得も低いため、多くの人々が農村を離れて都市へと流出している。とくに各国の首都圏への人口の一種集中は著



▲9 タイの首都バンコクへの人口集中 (Gross Regional and Provincial Product 2012, ほか)

4 東南アジアの工業の発展

東南アジアの国々の工業化にはどのような特徴があるのか、また近年はどのような変化がみられるのか、進出企業の動きに注目してみよう。

美しい町並みで知られるシンガポールでは、町のあちこちにFINE (罰金) と書かれた表示を目にする。この国では、ごみのポイ捨てに政府が断固たる方針をとって、道にたばこなどの小さなごみを捨てたり、つばを吐いたりすると罰金が科せられる。道路をよがむは、罰にすることはもちろん、旅行者がシンガポールにもち込むことも禁止されていて、違反すると日本円で数十万円の罰金が科せられる。



▲10 「ごみのポイ捨ては最大1000ドルの罰金」と書かれた看板 (シンガポール)

東南アジアは、原油や天然ガス、すずなどの鉱産資源に恵まれているが、第二次世界大戦前は多くが欧米諸国の企業家によって開発されていたため、自国の工業発展には結びつかなかった。戦後、独立を果たした東南アジア各国は、収入の安定しない農産物や鉱産物の輸出に依存したモノカルチャー経済から脱却するために、工業化政策をおし進めた。

1970年代から、各地に工業団地を整備し、人件費の安さを生かして外国企業を積極的に誘致した。さらに、製品の輸出を条件に關稅などで優遇措置を行う輸出加工区を設けるなどして、輸出指向型の工業化をめざした。輸出向けの工業生産の場合、世界市場を対象とすることで大量生産の利点を生かすことができ、輸出によって外貨収入が増大する。また外国企業が進出すれば、進んだ技術の導入も期待できる。東南アジア各国の工業化は、低賃金の労働力などを求め、先進国の企業が次々と進出した結果、急速に進み、1980年代後半に多数の日系企業が進出したことさらに加速した。

ASEAN諸国のなかで、最も早く工業化に成功したのはシンガポールである。小さな島国であるシンガポールは、繊維産業や電気製品の組み立てなどの簡単な工業の導入から始めて、教育にも力を入れながら、しだいに技術力の高度化をはかった。そうして重工業や電子工業、バイオテクノロジーなどの幅広い分野で急速な工業化を進めたシンガポールは、アジアNIESの一員となるまでに成長した。現在では、英語を話せる人が多く、都市基盤の整備が進んで治安も安定していることから、東南アジアに進出する多国籍企業の地域統轄本部や、

例) アングロアメリカ地誌 -結びつき- p.130-131

アングロアメリカ地誌でカナダの記述を新設！

◆アングロアメリカの展開

p.122-123  
導入・自然環境

p.124-125  
歴史・文化(アメリカ合衆国の記述中心)

p.126-127  
農業(アメリカ合衆国の記述中心)

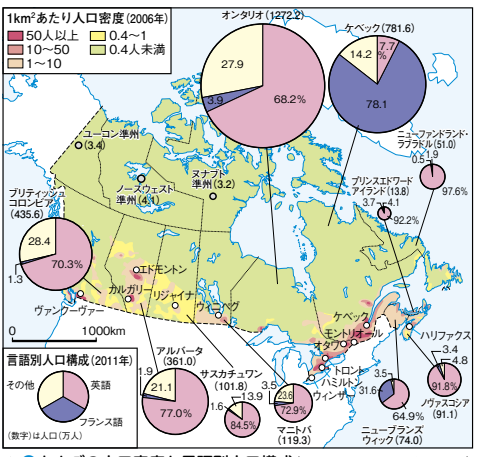
p.128-129  
工業(アメリカ合衆国の記述中心)

↓  
アメリカ合衆国中心に  
学んだあとで…

p.130-131  
結びつき(カナダおよび地域全体)  
日本とのかわり 本資料p.12-13



▲1 ケベック州の祝日になっている祭りの日にパレードをするフランス系住民(カナダ、モントリオール、2012年撮影)



▲2 カナダの人口密度と言語別人口構成(Statistics Canada, ほか)



▲3 紙幣のデザインから読み取るカナダの多民族社会

**現地レポート**  
**カナダのなかのフランス、ケベック州**  
 カナダのケベック州を訪れると、道路標識や店の看板などがフランス語だけで表記されているのに気づく。英語はほとんど見あたらない。それは、この地域がフランスからの移民によって開拓された歴史をもち、フランス語のみを公用語と定めているからである。ここでは、民族独立への意識が強く、1995年には住民投票が行われるなど、カナダからの分離・独立の動きが続いてきたという。

**カナダを事例に**

アングロアメリカの大国の一つであるカナダについて、国の全体像を本文化しました。多民族・多文化主義であることや、アメリカ合衆国と結びつきの強い農業・工業の特色がわかります。

**5 アングロアメリカの結びつき**

**リード**  
 カナダとアメリカ合衆国は、隣国どうしでのような結びつきをもっているのか、カナダの成り立ちや他地域との結びつきに注目しながらみていこう。

1 カナダは1931年にイギリスから独立したあとも、イギリス連邦に加盟している。

2 カナダには、南部にアメリカインディアン、北部にイヌイットなどの先住民も数多く暮らしている。1999年には先住民による自治準州として、ヌナブト準州が誕生した。

カナダは、イギリス系の住民を中心として新大陸につくられた国家という点では、アメリカ合衆国と似ている。しかし、アメリカ合衆国とは異なる経緯によって**多民族社会**を発展させてきた。カナダに最初に入植したのはフランス人であった。フランスとイギリスが植民地を争った結果、イギリスがカナダを支配下におき、その後、カナダはイギリスとの関係を継続してきた。一方で、イギリス系住民とフランス系住民が長い間共存してきたという歴史もある。今日のカナダでは、**英語とフランス語が公用語とされているように、多文化主義**がとられている。最近では中国やインドなど、アジアからの移民も増加傾向にある。

高緯度に位置するカナダでは、アメリカ合衆国との国境に近い、気候が比較のおだやかな南部に人口が集中している。**産業・経済**においてもアメリカ合衆国と強い結びつきをもっている。**五大湖**をへだててアメリカ合衆国の工業地域と接する南東部では、工業がさか

**日本とのかわり**  
**文化・経済・政治で強く結びついたアメリカ合衆国と日本**

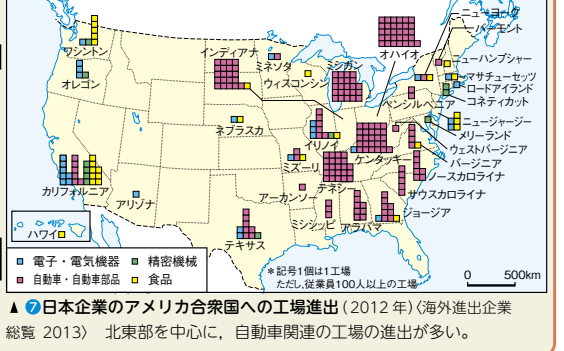
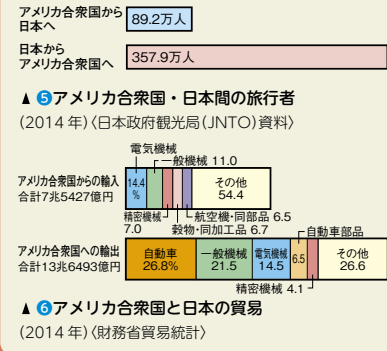
私たちは、インターネットによる情報の検索、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)の利用、書籍や音楽の購入など、アメリカ合衆国で開発された情報技術を日常的に利用している。また、アメリカ合衆国で生まれた大量生産方式によるファストフード、世界仕様のスマートフォンなどは、今や日本人の生活の一部になった。

生活・文化にかかわるものだけでなく、人の移動、貿易や産業などでも、アメリカ合衆国と日本のかかわりは深い。アメリカ合衆国に出かける日本人旅行者は年間300万人をこえ、留学や仕事のために、英語圏のアメリカ合衆国で生活する日本人も多い。とくに貿易においては、2006年に中国にかわるまで、アメリカ合衆国は長らく日本の最大の貿易相手国であった。両国の貿易では日本の輸出額が輸入額を大きく上まわっており、1980年代には貿易摩擦が起こったこともあった。このため、日本企業の多くは、アメリカ合衆国に工場を進出させ、現地生産を行っている。

国際的な安全保障に強大な影響力をもつアメリカ合衆国は、政治面においても日本と強く結びついている。1950年代に締結された日米安全保障条約にもとづいて、日本の各地には米軍基地がおかれ、アジアの政治的安定に重要な役割を果たしている。



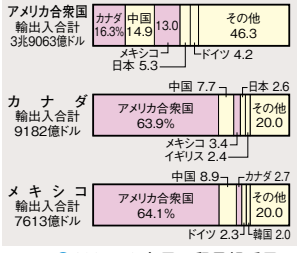
▲4 アメリカ合衆国で開発されたスマートフォンの新製品を店頭でためす人々(東京都、渋谷区、2014年撮影)



NAFTA成立による  
 結びつきの変化

んで、アメリカ合衆国に本社がある企業の関連工場が多い。また、マニトバ、サスカチュワン、アルバータの3州では、小麦や菜種を生産する大規模な農業が行われ、収穫された農産物はアメリカ合衆国の穀物メジャーによって集荷され、輸出されている。

▲8 NAFTA成立による結びつきの変化  
 アメリカ合衆国、カナダ、メキシコの間で、1994年に**北米自由貿易協定(NAFTA)**が成立した。その目的は、関税を段階的に撤廃すること、他国への投資を自由化すること、知的財産権を保護することなどにより、経済を発展させることである。この協定の成立により、加盟国の人口と国内総生産の合計が世界でも有数の経済圏がつくられた。協定の成立後は、メキシコへ進出するアメリカ合衆国の企業が増加するなど、工業面でも変化がみられる。また、カナダとメキシコ間の貿易も増えるなど、貿易の活性化による経済効果も出てきている。



▲8 NAFTA各国の貿易相手国(2013年)(UN Comtrade)

**チェック**  
 多民族社会のカナダとかかわりの深い国について、移民の歴史や産業、貿易の面から説明してみよう。

日本との結びつきを通して、諸地域の最新動向が具体的にわかる！  
 さらに、世界の諸地域がより身近に感じられる！

例) 韓国 p.75

**ここがポイント！**

貿易や文化などを切り口に、地域のまとまりと日本との関係がわかるよう記述しました。

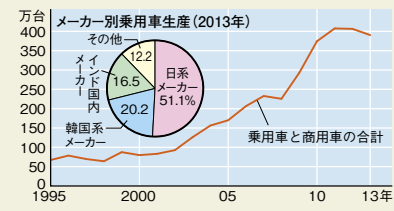
例) 南アジア p.91

**日本とのかかわり**

**南アジア市場に進出する日本企業**

南アジアの大国インドの基幹産業の一つは、自動車産業である。かつては国の保護と統制を受けて、少数の財閥企業が自動車生産を独占していたが、1980年代に政府の規制が緩和されると、各国の自動車メーカーが次々とインド市場に参入するようになった。日本の自動車メーカーも現地に合併企業をつくり、インドの人々が入手しやすい低価格の小型自動車の生産を開始した。現在では、日系の合併企業が現地で生産する車が、インドの自動車生産の5割を占めるまでに成長している。

一方、隣国のバングラデシュでは、安い労働力を強みとした衣料品の生産が重要な産業になっている。日本の衣料品関連企業も多数この国に進出し、生産や輸出を行っている。貧困層が大多数を占めるこの国で、衣料品の生産と現地向け販売を行い、その事業利益を現地に再投資することで、貧困問題の緩和をめざす日系企業も現われ、企業による社会貢献の例として注目されている。



▲ ④インドの自動車生産台数の推移とその内訳 (SIAM 資料、ほか)

▶ ⑤バングラデシュで衣料品の生産・販売を行う日系企業の店舗(ダッカ、2013年撮影)



例) サハラ以南のアフリカ p.103

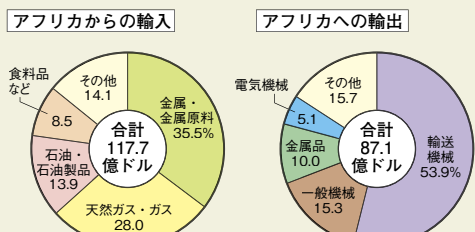
**日本とのかかわり**

**支え合うアフリカと日本**

日本人の生活のなかには、カカオ豆やコーヒー豆だけでなく、たこや白身魚、グレープフルーツ、バラなど、アフリカからの輸入にたよっているものがたくさんある。スマートフォンやハイブリッド車の生産には、アフリカで産出されるレアメタルが不可欠である。

日本にとって、アフリカからの農産物や鉱産物を安定的に輸入することは重要であるが、アフリカには貧困や内戦など、多くの課題を抱えている国が多い。日本は、これらの課題を解決するため、政府開発援助(ODA)や非政府組織(NGO)、企業による社会活動などを通してさまざまな支援を続けている。1993年以降、日本政府が主導して開催しているアフリカ開発会議(TICAD)などで、教育システムの開発や技術者の養成、農業指導、警察官の訓練など、今後のアフリカを担う人づくりにも尽力している。

▶ ⑤アフリカに進出した日本の化学メーカーの工場(タンザニア) マラリアを予防するため、防虫剤を練り込んだ糸で織った蚊帳を製造する技術を、無償供与している。



▲ ⑥アフリカと日本の貿易(2015年)(財務省貿易統計)

**日本とのかかわり**

**経済連携と相互交流を深める韓国と日本**

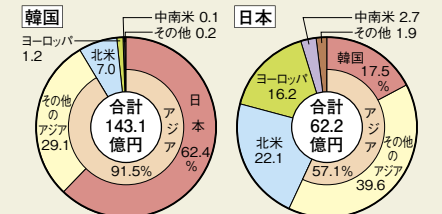
韓国と日本は1965年の日韓基本条約によって国交が正常化されたことにより、経済的な結びつきを拡大していった。1970年代以降、韓国が急速な経済成長をとげた背景には、日本からのさまざまな援助と協力があった。鉄鋼、造船、自動車など、現在の韓国の基幹産業の多くは、日本からの資金提供と技術協力もあって成長した。

このように両国では経済的な協力関係が強まっていった反面、人や文化の交流に関しては、1990年代まであまり進まなかった。それは、植民地支配を受けたことによる韓国人の反日感情を考慮して、韓国政府が日本の大衆文化に対する規制を行っていたためでもあった。

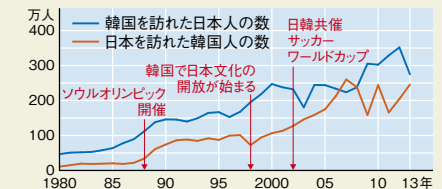
1990年代末になると、こうした規制が緩和され、韓国の若者に日本の漫画やアニメが受け入れられるようになった。また韓国では近年、映画やドラマ、音楽、ゲームなどの商品を製造・販売するコンテンツ産業の育成がはかられており、日本でも韓国のドラマやポップミュージックを見聞きすることが多くなった。おたがいの国を行き来する観光客も増え、相互の交流は深まりつつある。領土や歴史認識をめぐる問題など、両国の間には解決すべき問題もあるが、貿易をはじめとする経済連携や東アジアの政治的安定に向けて、今後も韓国と日本はさらなる協力関係を深めていくことが重要である。



▶ ④韓国の書店に並ぶ日本の漫画(ソウル) 日本の漫画は、韓国の若者の間で人気が高い。



▲ ⑤放送コンテンツ(番組放送権)の輸出先(2012年)(総務省資料、ほか) 韓国はドラマ、日本はアニメの輸出が多い。



▲ ⑥韓国を訪れた日本人と日本を訪れた韓国人の数の推移(日本政府観光局資料)

「日本とのかかわり」一覧

★…本ページに掲載した事例

地域	タイトル	カテゴリ	ページ
中国	日本の食を支える中国の野菜	貿易・消費	65
	緊密さを増す中国と日本の経済関係	消費・経済	69
韓国	経済連携と相互交流を深める韓国と日本	★ 経済・文化	75
東南アジア	日本市場向けのバナナ栽培がさかんなフィリピン	貿易・消費	81
	経済連携を深めるASEAN諸国と日本	経済・貿易	85
南アジア	南アジア市場に進出する日本企業	★ 貿易・市場	91
中央アジア・西アジア・北アフリカ	石油と技術で結びついた中東諸国と日本	貿易・技術支援	97
サハラ以南のアフリカ	支え合うアフリカと日本	★ 貿易・技術支援	103
ヨーロッパ	企業活動や貿易で強く結びついたEUと日本	貿易・市場	115
ロシア	結びつきを強める資源大国ロシアと日本	貿易・資源	121
アングロアメリカ	文化・経済・政治で強く結びついたアメリカ合衆国と日本	文化・貿易	131
ラテンアメリカ	ラテンアメリカの日系人	文化	135
	日本が協力したセラードの農業開発	貿易・技術支援	137
オーストラリア	人的交流が深まるオーストラリアと日本	文化・教育	143
	安全な肉牛生産の取り組み	貿易・市場	145





例) 世界の大地形と人々の生活 p.30-31

地形のイメージがわく！地形の特徴がつかめる写真を掲載！

2章 人間生活を取り巻く環境

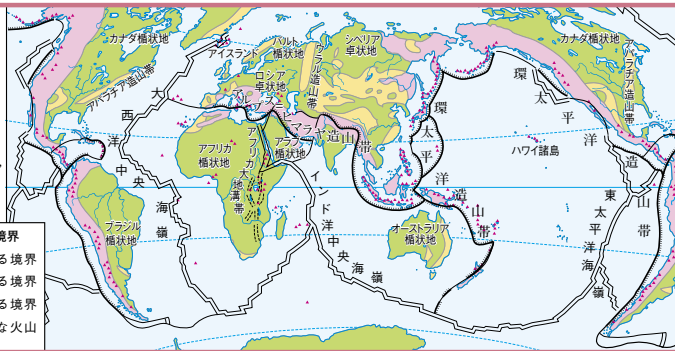
1節 人々の生活と地形

▶ ① ヒマラヤ山脈でトレッキングを楽しむ人々(ネパール) ヒマラヤ山脈は、プレートどうしが衝突する狭まる境界の内の営力によって形成されている。



▶ ② 世界の大地形とプレート境界

(Diercke Weltatlas 2008, ほか)



本文を増強！

大地形の用語の意味と、大地形がどのように形成されるか、記述を追加しました。

1 世界の大地形と人々の生活

リード 山脈や広大な平野は、どのようにつくられるのだろうか。世界の大地形の成り立ちを、プレートの移動や火山、地震、侵食作用などに注目しながらみていこう。

① 地球の最も表層の部分で、主として岩石からなる。

② 過去数十万年の間にくり返し活動をしてきた断層のこと。将来も動いて大地震を発生させる可能性が高い。

③ 高温の液体の岩石。地球は中心からコア、マントル、地殻の三層で構成され、マントルには一般には固体の岩石からなるが、部分的に液体のマグマになっている。それが地表に噴出して温度が下がると固化した溶岩になる。

用語解説を増強！

難解な概念を丁寧に解説しています。

地形を地球の内部から大陸、大山脈、列島、海溝などの大規模な地形を大地形とよぶ。大地形のうち大山脈、列島、海溝は、地球内部の熱エネルギーに由来する内的営力が長期間作用することによって形成される。

内的営力は、火山活動や地殻の隆起・沈降などをもたらす力で、この力が強いために地殻が不安定になっている場所を変動帯とよぶ。変動帯は、プレートどうしが衝突したり、沈み込んだりする場所に対応している。変動帯では造山運動がさかんで、土地の隆起により山脈が形成される。また、活断層が密に分布し、マグマの噴出で形成される火山も多い。

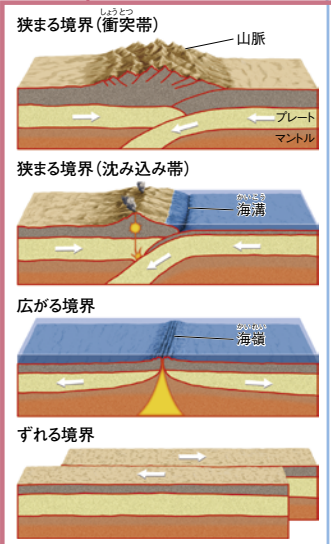
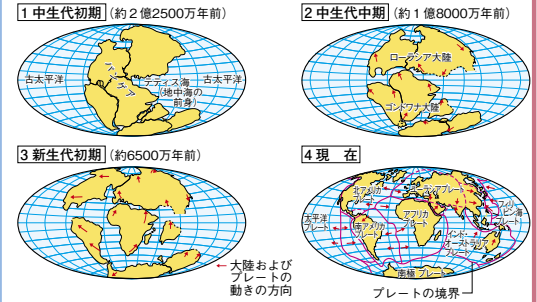
世界には、変動帯と山脈が連なっている地域がある。そのおもなものは、アンデス山脈やロッキー山脈、日本列島をはじめとする太平洋周辺と、アルプス山脈からヒマラヤ山脈、インドネシアへと続く地域である。それぞれ環太平洋造山帯、アルプス＝ヒマラヤ造山帯とよばれ、両者は現在も造山運動がさかんであることから、新期造山帯ともよばれる。これらの地域では、地震や火山の噴火などによって生じる自然災害が多いが、その一方で、温泉や地熱、山々の美しい景観などによる恵みも受けている。

模式図や図版が充実！

模式図や図版を通して、視覚的に、地形の基礎的な理解がすすみます。

クローズアップ プレートテクトニクス

地球の表面は、十数枚に分かれたプレートとよばれる厚さ100kmほどの巨大な岩盤におおわれている。プレートは年間数cmくらいの速さでゆっくりと動いている。動きは基本的に水平方向だが、プレートの境界では下方や上方に傾くことがある。現在の大陸の分布は、プレートが長い年月をかけて地球の表面を滑り動いたことにより形成されたと考えられている。この考えをプレートテクトニクスとよぶ。プレートの境界は、となり合うプレートどうしが押し合って近づく狭まる境界、引っ張り合って遠ざかる広がる境界、すれ違う方向に力がはたらくずれる境界の3種類に分類できる。狭まる境界では、プレートどうしが衝突することによりヒマラヤなどの大山脈が形成され、海洋のプレートが大陸のプレートの下に沈み込むことにより日本海溝のような海溝が形成される。一方、広がる境界には海嶺が形成される。



▲ ⑥ プレート境界の模式図 狭まる境界には、大山脈をつくる衝突帯と、海溝をつくる沈み込み帯がある。 ▲ ④ 大陸の移動とプレートテクトニクス (De Grote Bosatlas 2012)

NEW

プレートテクトニクスをコラムで新設！

地震や火山活動にも関連する、プレートの動きについて、模式図や図版を通して学べます。

地形を外から変える力 山を侵食するような、外から地形を変化させる力を外的営力とよぶ。外的営力には、谷、河川、海岸などにおける水の流れ、風としての大気の流れ、氷河の流動などがあり、おもに太陽エネルギーを原動力としている。

地球上には、かつては隆起がさかんで高く急峻であったが、造山運動が衰えたあとに長期間侵食され、なだらかな地形に変化した山地もある。アパラチア山脈はその例で、このような山地は古期造山帯に属し、大規模な炭田が多い。数億年以上の長期にわたって内的営力がほとんどはたらかず、外的営力がはたらか続けた場所は安定陸塊とよばれ、なだらかな地形が広がる。安定陸塊は、楯を伏せたようなゆるやかな高原(楯状地)、テーブルのような台地状の平原(卓状地)、侵食が進み平坦化された大規模な平野(侵食平野)からなり、地震や火山活動がほとんどないのが特徴である。外的営力は新期造山帯でもはたらく。例えば日本の山では、内的営力による隆起とともに雨などによる侵食も活発で、地形がたえず変化している。



▲ ⑥ 大平原を走るTGV(フランス、パリ郊外) TGVはフランスの高速鉄道で、写真の列車はパリとリヨンをつ結ぶ。沿線には山が少なく、トンネルもほとんどない。

地形の特徴がつかめる写真を掲載！

地形用語を増強！

チェック 1) 図②を見て、日本列島の近くにはどのようなプレート境界が集まっているか確認しよう。 2) 図④を見て、衝突によってヒマラヤ山脈を生み出した二つのプレートの名称を確認しよう。

「現地レポート」を通して学べる地形ページ

	現地レポート事例地域	ページ
世界の大地形		30-31
山地・平野の地形	甲府盆地 扇状地	32-33
海岸の地形	志摩半島 リアス海岸	34-35
氷河地形・カルスト地形・乾燥地形	アルプス 氷河	36-37

例) 山地・平野の地形と人々の生活 p.32-33

地形のイメージがわく！地形の特徴がつかめる写真を掲載！

冒頭の資料はできるだけ大きく掲載し、地形をよみとりやすくしました。写真の中に、見るポイントを示しているため、視点が定まります。



▲ 扇状地 (山梨県, 甲州市・笛吹市, 2010年撮影)

断面模式図を追加！



▲ 扇状地の模式図

地域のイメージがつかめる！「現地レポート」

代表的な地形と、そこで営まれる産業の事例を紹介しています。



▶ 観光農園でのぶどうの収穫 (山梨県, 甲州市, 2012年撮影)

**現地レポート**  
甲府盆地の扇状地  
夏のある日、東京から電車に乗って甲府盆地に向かった。トンネルを抜けると、盆地のへのりの緩斜面と、背後の山や谷が見えてきた。緩斜面は扇状地が連なったもので、桃の木やぶどうの棚がたくさん見えた。果物狩りの観光農園を営む農家の話によれば、生糸の生産が日本のおもな産業であった戦前には、扇状地はおもに桑畑として利用されていたという。戦後になると、扇状地の水はけや日あたりのよさと、昼夜の気温差が大きい気候を生かして、ぶどうや桃などの栽培がさかんになったそうだ。

2 山地・平野の地形と人々の生活

**リード**  
河川がつくる山地・平野の地形には、どのようなものがあるのだろうか。地形の特徴と人々の生活に注目しながらみていこう。

❶ 土砂が堆積してできた平野を**堆積平野**という。堆積平野のうち、おもに河川の堆積作用によるものを**沖積平野**という。

❷ 通常は水がなく、大雨などのときだけ水が流れる川。

山地・平野の地形と生活とのかかわり

山地は、河川によって深く刻まれたV字谷などのけわしい地形が形成されるため、居住には適さない。しかし、森林を利用して林業が行われ、また水源としても重要である。景色がよい場所は観光地にもなっている。一方で、地滑りや崖崩れなどが生じやすく、道路が破壊されることもある。山地での侵食は、谷の底に土砂をもたらす。そのような土砂は川が増水したとき下流側に運ばれ、盆地や平野で堆積する。河川が山の谷を抜けた山ろくでは、とくに砂や礫が堆積しやすく、扇状地ができる。扇状地では水が地下に浸透するために**水無川**ができやすく、水田よりも畑や果樹園に利用されることが多い。一方、扇状地の末端(扇端)では地下水がわき出するため、集落や水田が多い。山間の谷や扇状地では、大雨の際に土石流による被害が生じることがある。また、盆地や山間の谷には、以前の谷底が川に掘り込まれ



▲ 河岸段丘 (神奈川県, 相模原市, 2012年撮影)

▶ 河川がつくる地形の模式図



▲ 自然堤防と後背湿地 (新潟県, 新潟市, 2011年撮影) 古い河道などに沿った自然堤防の上に列状の集落があり、後背湿地は水田になっている。

▲ 三角洲(デルタ) (広島県, 広島市, 2013年撮影) 三角洲の上では河川が分流しやすく、水運に適している。また、土地が平坦なため、大都市も発達しやすい。

模式図が充実！

模式図や図版を通して、視覚的に、地形の特徴の理解がすすみます。模式図の中には、写真番号を入れ、本文+模式図+写真と、連動させた学習が可能です。

写真が充実！

本文で記述している地形の特徴がよくわかる写真を、豊富に掲載しています。



▲ 台地 (静岡県, 磐田原, 2012年撮影)

地形と土地利用の関係がわかる！

地形の形成過程だけでなく、各々の地形の特徴と、土地の使われ方を記述しているの、生活のようすがみえてきます。

**チェック**  
1) 扇状地の扇央と扇端における土地利用の特徴について、「水はけ」「地下水」という語句を用いて説明してみよう。  
2) 氾濫原では、集落や畑、水田がどのような地形に立地しやすいか、それぞれまとめてみよう。

気候の概念的な説明だけでなく、そこで暮らす人々の生活のようすを交えながら、各気候帯を1見開きずつ展開しています。

※亜寒帯・寒帯はあわせて1見開き

## 例) 亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活 p.52-53

写真や「現地レポート」から、各気候帯での生活のようすがわかる！



▲ ① 極東ロシアに広がるタイガ(ロシア、レナ川流域、2012年8月撮影)

**自社撮影**



▲ ② 高床になっている建物(上、ロシア、ヤクーツク、2月撮影)と暖かく保たれた室内で半袖で過ごす人々(左、ヤクーツク近郊、2010年2月撮影)

**自社撮影**



▲ ③ 凍った魚が売られる屋外の市場(ヤクーツク、2010年1月撮影)

**自社撮影**

**現地レポート**

### 極東ロシアの生活

夏休みに極東ロシアのヤクーツクを訪れた。町を歩いてみると、鉄筋コンクリートの集合住宅が地面から突き出た柱の上に建っていた。極東ロシアでは、地下に永久凍土の層があるため、地面に直接家を建てると、室内から伝わる熱で凍土がとけ、建物が傾いてしまうらしい。冬は気温がマイナス40℃以下になることもあるらしいが、夏は気温が20℃近くあり、郊外のツンドラに行ったら蚊がたくさん飛んでいた。ぬかるみも多く、現地の人々は地面や川が凍っている冬のほうが車で移動しやすいと話していた。

### 5 亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活

**リード**

寒さが厳しい亜寒帯・寒帯の地域では、どのような自然環境や人々の暮らしがみられるのだろうか。生活上の工夫や農牧業の特徴に注目しながらみていこう。

- 一年中凍結した状態の土壌で、最上部のみ夏にとける。極東ロシア、北アメリカの高緯度地域、チベット高原などのツンドラやタイガに広く分布する。
- スカンディナヴィア半島北部の地域。サーミという北方の遊牧民が伝統的に暮らしてきた地域で、サーミランドともよばれる。

人々の生活のようすがわかる本文

**冷涼な亜寒帯**

亜寒帯(冷帯)は気温の年較差が大きく、ほとんどが北半球に分布する。偏西風の影響で1年を通して平均的に降水がある**亜寒帯湿潤気候(Df)**のほか、ユーラシア大陸東部には、冬にシベリア高気圧の発達により降水量が少なくなる**亜寒帯冬季少雨気候(Dw)**がみられる。南部では農耕もでき、麦やじゃがいもなどが栽培されている。一方、北部には**タイガ**とよばれるモミやマツなどの針葉樹を主とする**亜寒帯林**が分布する。地下には**永久凍土**があり、夏には凍土の表面だけがとける。極東ロシアの内部には、冬の気温がひじょうに下がる場所があり、寒極とよばれている。しかし、窓やとびらを2重、3重にするといった工夫を行い、暖房設備を充実させることによって、家の中は冬でも暖かく保たれている。ラップランドなどでは、遊牧民がトナカイなどの牧畜を行っている。

**極寒の寒帯**

寒帯の**ツンドラ気候(ET)**の地域では、1年の大半が雪と氷に閉ざされている。短い夏の間だけ地面の雪や氷がとけ、コケ類や草などが育つ。凍土があって水がしみ込まないため、

## 「現地レポート」を通して学べる気候ページ

気候概念	現地レポートほか事例地域	ページ	気候概念	現地レポートほか事例地域	ページ
気候概念		42-43	温帯	ギリシャ(ミコノス島)	50-51
熱帯	インドネシア(サマリンダ)	46-47	亜寒帯・寒帯	ロシア(ヤクーツク)	52-53
乾燥帯	アルジェリア	48-49	高山気候	ボリビア(ラパス)	53

**NEW**

**クローズアップ 高山気候**

高山気候(H)は、アンデス山脈やチベット高原などの標高が高い地域に分布する。この気候区は、気温と降水量のみから判別するケッペンの気候区分にはもともとなかったが、その後の研究者によって加えられた。このため高山気候区は、ほかの気候区と重複する。標高が100m上昇するごとに気温は約0.65℃ずつ下がる(気温の**逆減率**)ため、赤道近くの熱帯地域でも、高山では常春のような快適な気候となり、ラパスのような高山都市が発達する。高山気候の地域では、年間の気温はひじょうに安定しているが、気温の日較差が大きく、紫外線も強い。ラパスの周辺では、高地でも栽培しやすいじゃがいもなどを山腹の畑で自給的に栽培している。また、寒さに強いアルパカやリャマを家畜として飼っている。

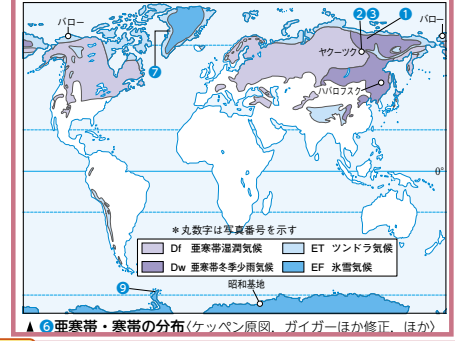


▲ ④ アンデス山脈の谷間にある都市ラパス(ボリビア、2010年3月撮影) ラパスの中心部は標高約3600mである。



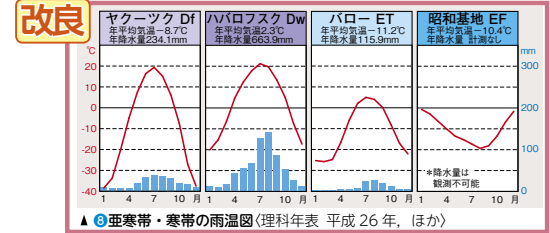
▶ ⑤ 高山気候の雨温図(理科年表 平成23年)

高山気候をコラムで新設!



各気候帯の分布図

地図上には、同ページに掲載している写真番号(撮影地)を表記しました。



池や湿地が多い。ここではイヌイトなどの狩猟民族が、川や海で**鮭**などの魚やアザラシなどの動物をとり、生活している。トナカイの**遊牧**も一部で行われている。自然環境が厳しいため、都市はほとんど発達していない。南極大陸とグリーンランド内陸部は、一年中雪と氷におおわれる**氷雪気候(EF)**で、研究や軍事上の観測基地などを除くと、人は住んでいない。冬にはしばしば**ブリザード**とよばれる**地吹雪**が起り、まわりがほとんど見えなくなってしまう。



各気候区の雨温図

横に並べることで、気候区どうしを比較しやすくなりました。

**チェック**

図⑥を見ると、南半球には亜寒帯がほとんどみられないのがわかる。その理由について、北半球と南半球の大陸分布の違いに着目して考えてみよう。

全ての見開きで 上段に資料 下段に本文・解説

の統一されたレイアウトだから学びやすい!

例) 南アジアの歩みとヒンドゥー教 p.88-89

※本資料p.34参照

学習内容がよみとれる図版・写真

資料と本文を関連づけて学ぶことができます。文章だけではイメージしづらい事項も、資料とあわせて学習することでより理解が深まります。

コラム「現地レポート」

学習内容に関連した各地のようすや事例を紹介するコラムで、臨場感をもって、学習できます。

参照・リンク

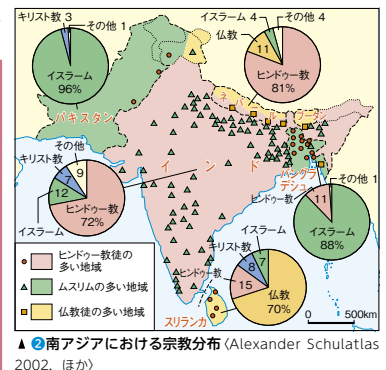
…文章・語句に関する見開き内の参照資料を示しています。

…文章・語句に関する他ページの参照先を示しています。関連事項をたどることができます。



▲1 ガンジス川で沐浴をするヒンドゥー教徒(インド、ヴァラナシ、2012年撮影)

現地レポート ガンジス川での祈り
ヒンドゥー教徒にとって聖なる川であるガンジス川中流のヴァラナシには、インド各地から大勢の巡礼者が集まっていた。ヴァラナシの左岸側は、とくに重要な聖地である。川岸に並ぶ沐浴場では、川の水に頭までつかって身を清め、祈りをささげる信者に、僧侶が宗教的な助言を与えていた。墓をつくらぬヒンドゥー教徒にとって、川岸の火葬場から遺灰をガンジス川に流してもらうことは大きな功德とされるため、死期の近づいた人々も集まってくるそうだ。



▲南アジアにおける宗教分布 (Alexander Schultatlas 2002, ほか)

2 南アジアの歩みとヒンドゥー教

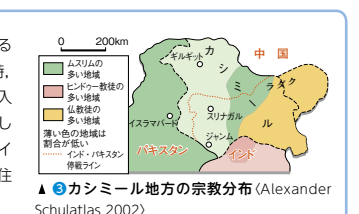
リード
インド世界とよばれる南アジアの国々は、どのような歴史をたどってきたのか、植民地支配や宗教に注目してみよう。

A
■ パキスタンが1947年にインドから分離・独立したとき、その国土はインドをはさんで東西に分かれていた。パキスタンの飛び地であった東パキスタンは、その後、インドの支援を受けて、1971年にバングラデシュとして再度の独立を果たした。

南アジアの歩み
インドとその周辺は、インダス文明にさかのぼる古い歴史をもち、独特な文化をはぐくんだ地域として「インド世界」とよばれることもある。この地域は、ヒンドゥー教を中心に文化的なまとまりを保っているが、仏教やシク教などの宗教が生まれた地域でもある。さらに北西部から入ってきたイスラームも、11世紀ごろから広がり、宗教的な多様性をもった世界を發展させてきた。

18世紀からこの地域を植民地として支配したイギリスは、綿花や茶の栽培を広めるなどしたが、土地税を厳しく取り立て、開発で生じた富を持ち去ったので、多くの人が貧困に苦しんだ。また、宗教の違いを利用した統治政策によって、長い独立運動のなかで、ヒンドゥー教徒とイスラームの対立が深まった。その結果、1947年にはヒンドゥー教徒の多いインドと、イスラームの多いパキスタンが分離・独立し、現在も両国の対立は続いている。1948年に独立し

クローズアップ カシミール問題
民族的对立によって、インドと周辺諸国との関係が不安定になることはたびたびあった。カシミール問題はその例である。独立時、この地域の住民の多くはイスラーム教徒であったため、パキスタンへの編入を望んだが、支配層はヒンドゥー教徒であったため、それに反対してインドに支援を求めた。それ以来、この地方の帰属をめぐる、インドとパキスタンは武力衝突を繰り返している。またチベット系住民の多い東部は、中国が実効支配している。



▲カシミール地方の宗教分布 (Alexander Schultatlas 2002)

▼4 さまざまな言語が表示されているインドの紙幣
アッサミー語, ベンガリー語, グジャラーティ語, カンナダ語, カシミー語, コンカニ語, マラーヤラム語, マラーティ語, ネパリー語, オディア語, パンジャビ語, サンスクリット語, タミル語, テルグ語, ウルドゥー語



▲6 洗濯屋カースト(インド、ヴァラナシ、2011年撮影) 洗濯屋カーストの人々が、家庭から預かった衣類を洗っている。

たスリランカは、国民の7割を仏教徒が占める。1980年代から、北部に住むヒンドゥー教徒である少数派民族の武装集団によって、内戦が続いていたが、2009年に一応の終結を見た。

ヒンドゥー教と人々の生活
インドで多くの人が信仰するヒンドゥー教は、特定の開祖のいない多神教で、慣習や社会制度などと深く結びついている。ヒンドゥー教徒は生まれによってジャーティとよばれる集団に属するが、ジャーティはバラモン(祭司)・クシャトリア(王族・武士)・ヴァイシャ(庶民)・シュードラ(隷属民)などの身分の枠の中で、社会的地位の上下関係が定められている。これをカースト制とよぶが、現在はカーストによる差別は憲法で禁止されており、また、経済と社会の変化によって薄れてきた。しかし、結婚や村の中での住み分け、代々受け継がれてきた伝統的職業など、生活上での決まりごとにはまだ根強く残っている。

インドでは、地方ごとに異なった言語が使われており、文字も異なる。全国の公用語に定められているヒンディー語は、話せる人が全人口の半数に満たず、植民地時代に広く用いられた英語が共通語として使われることも多い。

ところ変われば

世界の映画大国、インド
インドは年間1200本以上もの映画が制作される世界の映画大国である。とくに映画産業がさかんムンバイ(ボンベイ)は、アメリカ合衆国の映画産業の中心地ハリウッドをもじって「ボリウッド」ともよばれている。多言語国家のインドでは、映画もさまざまな言語で上映されており、わかりやすいストーリーに加えて、歌や踊りが盛り込まれたミュージカルの映画であることが多い。

同じ先祖をもち、同じ職業を継いできた伝統的な集団。地域的にもまとまりがあり、インド国内には数千のジャーティがあるといわれる。

チェック
図を見て、南アジアでおもに信仰されている宗教を、国ごとにまとめてみよう。

コラム「クローズアップ」

学習内容に関連したテーマや、地域の新しい動きを紹介しています。

コラム「ところ変われば」

私たちの生活・文化や風習とは異なる、世界の諸地域のさまざまな文化を紹介しています。

側注解説

難解な用語や、補足解説が必要な事項について、側注で丁寧に解説しています。

改良 平成25年度版 教科書より7mmずつ拡大

A リード
これからの学習でおさえるべき課題を、学習のはじめに確認できます。

製本の工夫で、各見開きのノド(綴じられている部分)が開きやすくなり、その分誌面の情報量が増えました!

B チェック
学習した内容を確認したり、自分の言葉で説明したりする作業を通じて、学習項目をまとめることができます。

各見開きで、A リード: 学習課題 ↓ B チェック: まとめ の連動したアクティブ・ラーニングが可能です。

# 特色 4 GISや電子地形図の活用まで着実に習得できる地理的技能 地形図・雨温図・ハイサーグラフなど、地理学習に欠かせない技能を着実に習得できる

地理学習に欠かせないとくに重要な技能について特設コーナー「技能をみがく」を19テーマ設けています。

■学習内容の順番に応じて、適切な箇所に設置しています。

例) 気候単元 p.42～53

p.42-43  
気候要素  
ケッペンの気候区分

技能 p.44-45  
雨温図・ハイサーグラフの見方  
写真の読み取り方

p.46～53  
各気候帯の本論  
本資料p.20-21参照

段階的に技能が身につく作業 作業1 作業2 作業3を通じて、雨温図・ハイサーグラフの見方が段階的に身につきます。

ハイサーグラフの見方を新設

「技能をみがく」コーナー一覧

※新規テーマ

テーマ	ページ	テーマ	ページ
① 時差の計算	7	⑪ さまざまな地図の収集と活用	171
② 略地図の描き方	14	⑫ 身近なGPSやGISの活用	174
③ 統計資料のグラフ化	15	⑬ 電子国土基本図の利用方法	175
④ 統計地図の見方とつくり方	16	⑭ 電子地形図25000の利用方法	177
⑤ 統計地図の比較	20	⑮ 津波被害を地形図でとらえる	183
⑥ 地形図の利用	38	⑯ ハザードマップの見方	189
⑦ 地形図からみた地形	40	⑰ 災害の危険度を新旧の地形図比較でとらえる	193
⑧ 雨温図・ハイサーグラフの見方	44	⑱ 新旧の地形図の比較	200
⑨ 写真の読み取り方	45	⑲ プレゼンテーションソフトを活用した発表	205
⑩ 人口ピラミッドの読み方	159		

例) 雨温図・ハイサーグラフの見方 p.44

### 技能をみがく8 雨温図・ハイサーグラフの見方

各地の気候の特徴を表す代表的な指標は、気温と降水量である。これらの指標をグラフで表現したものに、雨温図とハイサーグラフがある。両者は表し方が異なるグラフであるが、どちらも月平均気温と月降水量の数値を使用する。ここでは、グラフから気候の特徴を読み取る方法について学ぼう。

#### 雨温図から気候を読む

① 気温の読み取り  
気温の折れ線グラフから最も気温が高い月(最暖月)と低い月(最寒月)を読み取り、図の左側の目盛りから、それぞれ何度(°C)かを調べよう。気温の折れ線が水平に近い場合、気温の年較差が小さく、逆に凸型や凹型になる場合は、年較差が大きい。

② 降水量の読み取り  
降水量の目盛りは図の右側に示されている。降水量が多い月が数か月連続し、少ない月もそうであれば雨季と乾季がある。

作業1 図①中の□に、気温の年較差の数値を記入しよう。東京はどの気候区分に属するのか、考えてみよう。

作業2 図②を見て、下の□に適切な数字を入れよう。ローマとケープタウンは、ともに地中海性気候(Cs)に属するが、降水量が最も少なく、気温が高い時期は、ローマでは□月ごろ、ケープタウンでは□月ごろである。このように、同じ気候区分でも、北半球にあるローマと南半球にあるケープタウンとは、雨温図のグラフの凹凸が異なる。雨温図を読み取る際は、まず気温に注目し、最暖月が12月や1月の場合には南半球であることに注意しよう。

#### ハイサーグラフから気候を読む

ハイサーグラフは、横軸に降水量、縦軸に気温をとり、月々の降水量と平均気温を点で表して結んだものである。グラフの縦幅は気温の年較差の大小を表し、縦幅が長い場合は、雨季と乾季の降水量の差があることを示す。ハイサーグラフでは、その大まかな形から気候区分を判定することができる。

作業3 図③中のAとBは、どちらがモスクワ(M)でどちらがシンガポール(S)か、考えてみよう。

例) 地形図の利用 p.38-39

### 技能をみがく6 地形図の利用

国土交通省国土地理院発行の地形図は、日本全土を細かく分けて網羅した地形図である。縮尺には、5万分の1や2万5千分の1がある。後者はインターネットでも閲覧できる。大都市域などでは、より詳しい1万分の1の地形図もつくられている。

地形図には縮尺や等高線、土地利用や建造物を表す地図記号など、一定の約束ごとがある。等高線の主曲線は、2万5千分の1地形図では10m間隔、5万分の1地形図では20m間隔で引かれ、平地などでは間隔がより狭い補助曲線が引かれることもある。主要な等高線を色鉛筆でなぞったり、方眼紙に地形の断面図をかいたりすると、地形の形状をとらえることができる。また、水田を緑色、畑を黄色、果樹園を桃色というように着色すると、土地利用の特徴や傾向を詳しく分析することもできる。ここでは、地形図を活用するためのさまざまな作業に取り組んでみよう。

縮尺 地図上の長さ 地上の1cmが示す距離  
1:50000 500m 1cm×50000=50000cm=500m  
1:25000 250m 1cm×25000=25000cm=250m

① 縮尺 2万5千分の1地形図上の1cmは、実際には250mであることが、左の計算からわかる。同様に、5万分の1地形図上の1cmは、実際には500mである。

② 地形を表す記号

▲ 等高線の種類

▲ 登山コースの断面図

▲ 山に登るコースの平面図

▲ 2万5千分の1地形図の記号 - 平成25年国図式

▲ 尾根線と谷線をなぞってみよう。

▲ 尾根線に沿って山に登る断面図である。A～Dのどの地点から登るコースだろうか。

▲ 函館市の地形図 (5万分の1地形図、函館市 平成19年修正、[五線] 訂正 平成18年修正)

▲ A～B間の地形断面図

▲ 函館市から見た函館市のようす (2011年撮影)

▲ 函館市の空中写真 2枚の写真の間に はがきを立て、左の目で左の写真、右の目で右の写真を見るようにする。次に写真の同じ場所が重なるように視線を寄せると、地形や建物が立体的に見える。これを実体視という。

### 作業指示を明確にした「トライ」

段階に応じた設問に順に取り組むことで、地理的技能が着実に身につきます。ここでは、①尾根・谷の読み取り方を習得した上で、②実際の地形図を使った作業に取り組めます。

▲ トライ

- 1) 函館市の市街地は、何という海岸地形か p.34 図①を参考にして答えよう。
- 2) 図②で函館山の山頂と市役所の間の距離をはかり、図③を参考に実際の距離を計算で求めてみよう。
- 3) 図④上のA～B間の地形断面図を、図⑤に完成させよう。
- 4) 写真⑥の2枚の写真の間に はがきなどを立て、実体視をしよう。

### 書き込みができるスペース

デジタル化された地図や電子地形図などの新しい地図について、その特徴や入手方法、活用方法などを紹介しています。次期学習指導要領(新課程)の地理総合において、重視されるGISについても丁寧に解説しています。

例) 身近なGPSやGISの活用 p.174

身近な生活のさまざまな場面で活用しているGPSやGISの事例を紹介しています。行きたい場所を調べる際に使われるGPSの位置情報や、主題図作成に用いられているGISなどそれぞれの効能が理解できます。

NEW

技能をみがく12 ▶ 身近なGPSやGISの活用

今日では、さまざまな情報が緯度・経度の位置情報とともに利用されるようになってきており、私たちは身近な生活のさまざまな場面で、GPSやGISの技術を活用している。

例えば、GPS機能をもつスマートフォンや携帯電話から緊急通報があると、それを持っている人の位置情報も同時に送信される。緊急通報を司令室が受信すると、救急車や消防車などに搭載した専用端末に、通報現場の位置情報が直接送信される。専用端末では、道路の渋滞情報などから割り出された通報現場への最短ルートを表示することができ、隊員の対応が迅速化されている。

また、パソコンやスマートフォンで行きたい施設の名称を入力して検索すると、連絡先などの情報と

ともに、その施設の位置が地図上に表示される。その際、GPS機能を使って自らの位置情報を送信すれば、その施設への行き方も簡単に表示される。こうした機能を活用することで、私たちは旅先など初めての場所であっても、その地域の情報を簡単に入手することができる。

一方GISは、さまざまな地図の編集や加工を飛躍的に容易にした。GISの技術を用いれば、数値をもとにしたさまざまな主題図を、着色などの表現方法を試行錯誤しながらつくっていくことができる。また、標高の情報を用いれば、立体的な地図表現も可能である。住宅地図に火山土地条件図などの防災上必要な情報を重ねて表示させれば、ハザードマップの作成や避難計画の策定などにも有効である。



▲1 インターネット上の地図サイトで図書館を検索した結果(2015年4月閲覧)



▲2 地図データから作成した富士山の鳥瞰図(TRIC) 植生や土地利用を示した地図と、土地の起伏のデータをもとに、立体的に表現している。コンピュータの画面上では、地図を動かして、さまざまな角度からながめることもできる。

トライ

- 1) インターネット上の地図サイトにアクセスし、自宅や学校の間の移動ルート調べ、実際の通学ルートと比較してみよう。
- 2) インターネット上の地図サイトで、自宅や学校周辺にある公共施設、災害時の広域避難場所を調べ、その位置を確認してみよう。

例) 電子国土基本図の利用方法 p.175

ウェブサイト上で閲覧が可能で、電子国土基本図の利用方法を紹介します。閲覧し設定可能な縮尺、距離や面積に有効であることがわかります。

NEW

技能をみがく13 ▶ 電子国土基本図の利用方法

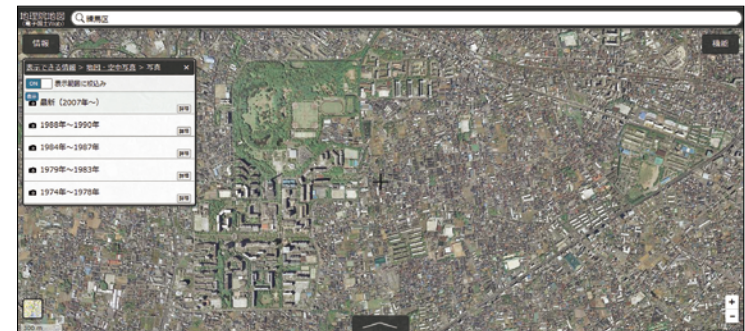
紙の地図にはないデジタル地図の大きな特徴は、さまざまな地図を重ねて表示したり、必要な情報だけを選択して表示したりできることである。国土地理院は、これまで作成してきた紙の地図に加えて、インターネット上にデジタル地図である電子国土基本図を公開している。この地図は「地理院地図(電子国土Web)」というウェブサイト上で閲覧することができ、道路や建物のみならず、自然条件を表す土地

条件図や植生図、新旧の空中写真なども重ねて見ることができる。地図上のデータは随時更新され、つねに最新に近い情報が得られる。また、日本全体を表示するような縮尺から、建物一つまで判別できる2千5百分の1の縮尺にいたるまで、縮尺も自在に設定することができる。さらに、地図上に線を引いたり、距離や面積を調べたりすることもできるため、身近な地域を調べる際にも有効な地図である。



▲1 電子国土基本図で見た練馬区周辺の地図(2015年4月閲覧) 地図を画面上で動かして、全体の地図の範囲を指定できるほか、緯度・経度を入力して地図の中心位置を指定することができる。

▼2 電子国土基本図で見た練馬区周辺の空中写真(2015年4月閲覧) 地図と空中写真を切りかえたり、地図上に標高データや土地条件図を重ねたりすることができる。



トライ

- 1) インターネット上で地理院地図(<http://maps.gsi.go.jp/>)のウェブサイトアクセスし、自分の学校の緯度・経度と標高を調べてみよう。
- 2) 空中写真を表示させ、学校周辺の土地利用を読み取り、昔の写真もあれば、その変化も読み取ってみよう。

例) 電子地形図25000の利用方法 p.177

電子化した2万5千分の1の地形図について、紙の地形図との違いや、利用手順を丁寧に解説しています。

ウェブサイトの画面を表示して、実際の操作を掲載しているため、具体的な利用方法が身につきます。

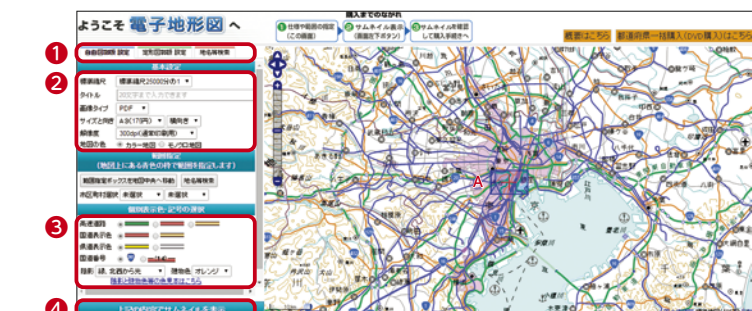
NEW

技能をみがく14 ▶ 電子地形図25000の利用方法

現在、2万5千分の1地形図は、電子国土基本図をもとにした電子化が進められており、電子地形図25000としてインターネット上で公開されている。電子国土基本図で更新された情報は電子地形図25000にも反映され、従来の紙の地形図よりも更新頻度が高くなっている。

電子地形図25000のウェブサイトでは、2万5千分の1地形図の画像ファイルが購入可能であり、

目的や用途に応じてさまざまな地図画像を作成することができる。例えば地図表現では、道路や建物の色を選択できるようになり、地形に陰影をつけることもできる。また、紙の地形図では定形の範囲のものしか用意されていなかったが、電子地形図25000では地形図の範囲を自由に設定できるので、身近な地域を調べる際に、定形の図郭にとらわれずに必要な範囲だけの地形図を入手することもできる。



▲1 電子地形図25000の表示例(2014年11月閲覧)

1 範囲の設定

自由に範囲を指定したいときには「自由図郭版」、従来の紙の地形図と同じ範囲を指定したいときには「定形図郭版」を選択する。選択した範囲は、図5中のAのように表示される。

2 画像の種類や大きさの設定

画像は「カラー地図」か「モノクロ地図」かを指定することができ、サイズや向きをかえることもできる。

3 表現の設定

2)で「カラー地図」を指定した場合、図7のように道路と建物を色分けすることができる。地形のようすを視覚的に表現したいときには、「陰影」をつけることよい。

4 表示内容の確認と画像ファイルの購入

画像の設定を終えたら、表示内容を確認し、画像ファイルを購入する手続きに進む。



▲2 電子地形図25000の表現例 道路は種類ごとに色をかえることができ、高速道路、国道、県道が異なる色で塗られている。また、地形の凹凸を読み取りやすくするために、陰影がついている。

トライ

インターネットで電子地形図25000(<http://dkgd.gsi.go.jp/dkgx/page1.htm>)のウェブサイトにアクセスし、紙の地形図との違いを確認してみよう。

▲1 電子地形図25000の利用手順

# 災害発生メカニズムから具体的な対策まで、総合的に学べる防災 日本の災害の特徴から、具体事例による人々の防災対策まで、理解が深まる

防災分野は、日本の自然環境と関連させて、各種災害のメカニズムをとらえてから、具体的な過去の災害の事例と防災対策まで学ぶことができます。

例) 地震被害と防災 p.180 ~ 185

概論 p.181

2 地震被害と防災

地震の種類や、マグニチュード・震度などの概念を解説しています。

メカニズム p.181

NEW

災害発生メカニズムがわかりやすい模式図を掲載！

クローズアップ 地震と津波はなぜ起こるのか？

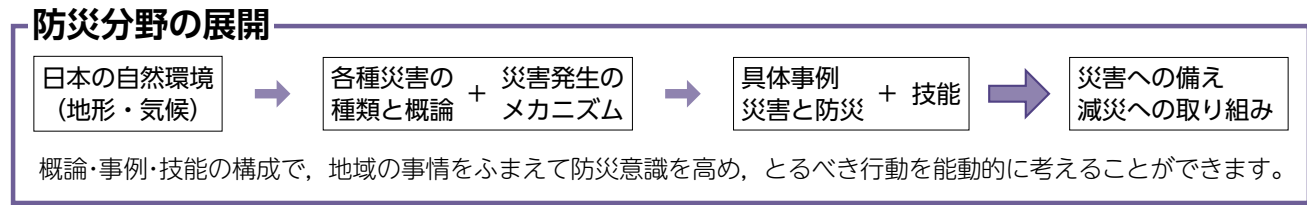
●地震のしくみ

① 海溝型地震

② 直下型地震

●津波のしくみ

地震や津波のしくみを、断面図を用いてわかりやすく図解表現しています。



代表的な具体事例 p.182

NEW

▲津波で壊滅的な被害を受けたリアス海岸の港町(岩手県、陸前高田市、2011年3月12日撮影)

▲津波が押し寄せた海岸平野(宮城県、名取市・岩沼市、2011年3月11日撮影)

▲津波に強い町をつくるためのかさ上げ工事(岩手県、陸前高田市、2014年撮影) 高台に住宅地をつくるために切り崩した山の土砂を、市街地のかさ上げ工事に盛り土に利用し、約10mもの土地のかさ上げを行っている。

▲東北地方太平洋沖地震の震度と津波の高さ(気象庁資料、ほか)

「技能をみがく」コーナー

→詳しくは本資料 p.30-31 (次ページ)へ

現地取材で得た情報や被害の具体的なようす、人々の防災対策を「現地レポート」や本文に記載し、実感を伴いながら防災意識を高められます。

近年の事例

生徒の当事者意識を高められるよう、近年発生した自然災害の事例を多数掲載しています。

防災分野具体事例一覧

災害の種類	具体事例
地震被害と防災	海溝型地震【p.182東北地方太平洋沖地震、p.185東海地震など】 直下型地震【p.184兵庫県南部地震】
火山災害と防災	火砕流・土石流【p.187雲仙普賢岳】 火山灰【p.188桜島】
風水害・雪害と防災	浸水【p.191木曾三川】 都市型水害【p.192東京】 土砂災害【p.194広島市】 雪害【p.195新潟・北海道・長野・山梨】

※新規事例

# 災害発生メカニズムから具体的な対策まで、総合的に学べる防災 地理的技能を活用した防災対策が 着実に習得できる

地形図や主題図・ハザードマップを活用して、防災に役立てられる地理的技能を「技能をみがく」コーナーにまとめました。実際の被害の範囲の読図や、新旧地形図の比較などを通して、起こりうる災害への備えを身につけられます。

ここがポイント!

既習の地理的技能【技能をみがく：地形図の利用 (p.38-39) →本資料p.24-25】を活用し、異なる地域の比較や同一地域の新旧比較など、さらに踏み込んだ地理的技能を身につけられます!

例) 津波被害を地形図でとらえる p.183

ここでは、東北地方太平洋沖地震による津波の浸水域を、リアス海岸と平野の広がる地域とで比較しています。地形の特徴により、津波の高さの増大、浸水域や被害の種類が異なることがわかります。

例) 災害の危険度を新旧の地形図比較でとらえる p.193

ここでは、新潟県旧中之島の町の新旧地形図を比較することで、河川改修による変化のよ居住地には適さなかった場所ことなどから災害の危険度がわかります。

例) ハザードマップの見方 p.189

災害の種類ごとに、ハザードマップでどのような情報が示されているか、見るべきポイントなどを紹介しています。ここでは、富士山ハザードマップを事例に、被害の予測範囲や避難所の選択を図上でシミュレーションできます。



NEW

技能をみがく15 ▶津波被害を地形図でとらえる

津波による被害は、浸水域の周辺の地形条件によって大きく異なる。地形と津波の関係を考える際には、地形図が役に立つ。リアス海岸では、湾の幅が奥に行くほど狭くなるため、湾に侵入した津波の高さが内陸側ほど高くなりやすい。一方、低平な海岸平野では、津波を受けとめる山などの地形が少ないため、波の高さの増大はほとんど生じない。しかし、平野の広い範囲が浸水し、川沿いなどでは内陸の奥まで津波が到達する。

東北地方太平洋沖地震による津波の浸水面積をみると、リアス海岸が多い岩手県では約60km<sup>2</sup>、海岸平野が多い宮城県では約330km<sup>2</sup>と5倍以上の差があった。

- トライ**
- 1) 図⑥の2枚の地形図で、海岸線のようなすを見比べ、地形の特徴の違いを文章にまとめてみよう。
  - 2) 図⑥で岩手県大船渡市と宮城県仙台市の津波の高さを確認し、図⑥の地形図では二つの地域の浸水範囲を見比べてみよう。二つの地域では、津波の被害にどのような違いがあるだろうか。



三陸海岸では、防潮堤や避難所に指定されていた建物までもが津波の被害を受けた。このため震災後は、海岸近くの低地は商工業用地として住宅の建設を規制する一方で、海から離れた高台に新しく宅地を造成する新たな町づくりが進められている。仙台平野では、海水をかぶった農地の塩分を取り除く作業が行われ、さらに農地の個々の区画を大きくすることにより震災前よりも農地の生産性を高めようとしている。また、海岸近くを小高い堤防のようにはする高速道路(仙台東部道路)を一時避難場所にした訓練も行われている。



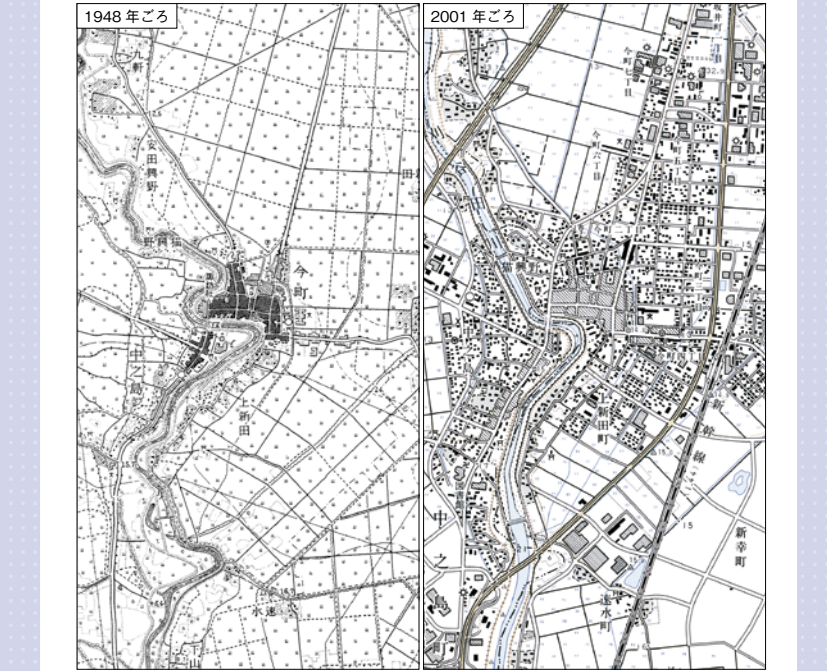
▲訓練で仙台東部道路の避難階段を上る住民たち(宮城県、仙台市、2013年撮影)

技能をみがく17 ▶災害の危険度を新旧の地形図比較でとらえる

新旧の地形図を比較すると、現在の土地における災害の危険度を把握することができる。以前は土木工事などによる災害の制御が難しかったため、人々は土地の災害の受けやすさを考慮しつつ、居住地や農地を選んでいった。そのため、過去の地形図のほうが土地の災害の危険度を読み取りやすいことがある。読み取りの結果を現在の地形図と比較してみると、本来は危険な場所が、現在どのように使われているかがわかり、防災に役立つ。

図⑦の刈谷田川は、改修によって河川を直線化したため、以前に比べて河道の蛇行が減っている。かつて河道であった場所の一部には、建物が建っているところもある。このような場所の地盤は弱く、地震の際にはゆれや液状化現象の被害が大きい可能性がある。かつて水田であった後背湿地が宅地になっている場所も、標高が低いいため、堤防の決壊や内水氾濫による浸水被害を受けやすい。

- トライ**
- 1) 刈谷田川の堤防は、周辺の土地より何mくらい高くつられているだろうか。標高点の高度から読み取ってみよう。また、上流は南北どちらか考えてみよう。
  - 2) 図⑦の2001年ごろの地形図で、都市界を赤色でなぞってみよう。新旧の地形図を見比べてみると、何がわかるだろうか。



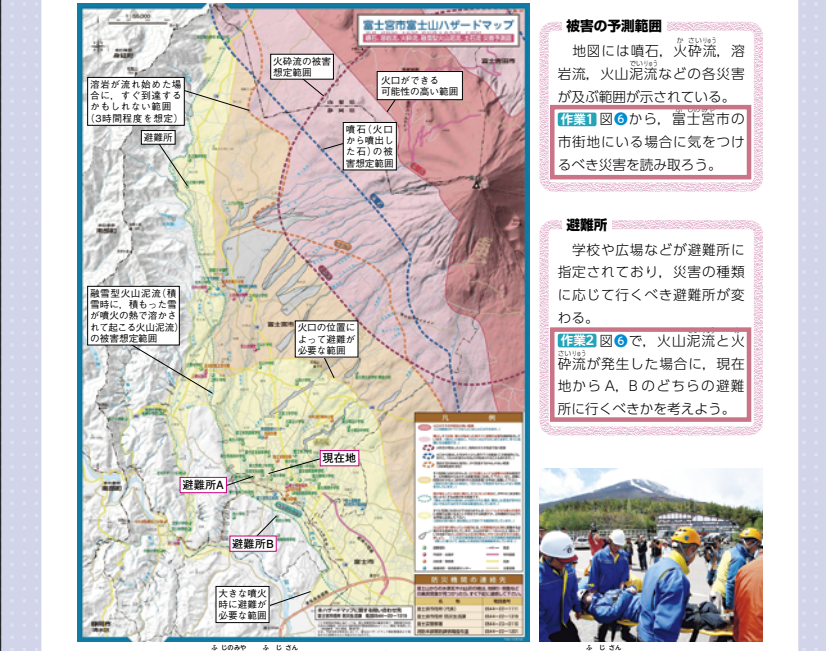
技能をみがく16 ▶ハザードマップの見方

ハザードマップは、将来生じるであろう災害の範囲や被害状況を予測した地図であり、過去の災害記録や、地形・地質などに関する資料などからつくられる。洪水や地震など、自然災害の種類別につくられ、その地域に暮らす住民の災害に対する意識を高めたり、災害発生時に取るべき行動を考えたりする際に有効である。

ハザードマップを見る際には、自分が住んでいる場所との関係を考えることが重要である。居住地にも被害が及ぶのか、及ぶとするとどのように避難すればよいかということを、地図から読み取る必要がある。自宅や学校の所在地、その近隣地域に関するハザードマップを探してみよう。

災害の種類	ハザードマップで示される内容
火山	噴火時の火砕流や溶岩流の到達範囲、土石流の危険箇所などを表現。噴火時の立ち入り禁止箇所を示したものもある。
洪水	洪水発生時の浸水域と水深を表現。平地の場合、避難所の階数まで示しているものもある。
津波	津波による浸水域と水深を表現。高台の避難所にすみやかに避難できるように避難の方向を示したものもある。
土砂災害	崩壊、地滑り、土石流が発生する危険のある箇所を表現。
地震	地震による津波被害や土砂災害の予想範囲などを表現。液状化現象の危険性などを示したものもある。

▲さまざまな自然災害とハザードマップで示される情報



▲火山災害に備えた富士宮市富士山ハザードマップ(富士宮市危機管理課 平成21年発行、中央ジオマックス作成) 災害の兆候を見つけたときの連絡先として、防災機関の電話番号も示されており、住民への協力が呼びかけられている。

**被害の予測範囲**  
地図には噴石、火砕流、溶岩流、火山泥流などの各災害が及び範囲が示されている。  
作業1 図⑥から、富士宮市の市街地にいる場合に気をつけるべき災害を読み取ろう。

**避難所**  
学校や広場などが避難所に指定されており、災害の種類に応じて行くべき避難所が変わる。  
作業2 図⑥で、火山泥流と火砕流が発生した場合に、現在地からA、Bのどちらの避難所に行くべきかを考えよう。



▲富士山の噴火を想定した避難訓練で登山客の救護の練習をする人々(山梨県、鶴沢村、2013年撮影)



# 教科書の全体構成

## もくじ

世界の食文化……………巻頭1 はじめに……………巻頭3	2 東南アジアの歴史と民族……………78 3 東南アジアの農業とその変化……………80 4 東南アジアの工業の発展……………82 5 東南アジアの経済発展と生活の変化……………84
<b>1部 世界の諸地域の姿と地球的課題</b>	<b>4節 南アジアの生活・文化……………86</b> 1 南アジアの自然環境……………87 2 南アジアの歩みとヒンドゥー教……………88 3 南アジアの産業の発展……………90
<b>1章 地球儀や地図からとらえる現代世界</b>	<b>5節 中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化……………92</b> 1 中央アジア・西アジア・北アフリカの自然環境……………93 2 地域の歴史とムスリムの生活……………94 3 豊かな石油資源と人々の生活……………96
<b>1節 地球上の位置と国家……………4</b> 1 地上の現象と地球上の位置……………4 2 経度の違いと時差……………6 3 球面と平面の世界……………8 4 国家の領域と国境……………10 5 日本の領域と領土問題……………12	<b>6節 サハラ以南のアフリカの生活・文化……………98</b> 1 サハラ以南のアフリカの自然環境……………99 2 サハラ以南のアフリカの歴史と文化……………100 3 変わるサハラ以南のアフリカ……………102
<b>2節 グローバル化が進む世界……………18</b> 1 結びつきを強める現代世界……………18 2 拡大する世界の貿易……………22 3 世界を結ぶ交通……………24 4 世界を一つに結ぶ通信……………26 5 観光と人の移動のグローバル化……………28	<b>7節 ヨーロッパの生活・文化……………104</b> 1 ヨーロッパの自然環境……………105 2 ヨーロッパの歩みと文化……………106 3 ヨーロッパの統合……………108 4 ヨーロッパの農業と共通農業政策……………110 5 ヨーロッパの工業とその変化……………112 6 EU 拡大による影響と課題……………114
<b>2章 人間生活を取り巻く環境</b>	<b>8節 ロシアの生活・文化……………116</b> 1 ロシアとその周辺の自然環境……………117 2 ロシアの歴史と社会の変化……………118 3 ロシアの産業とその変化……………120
<b>1節 人々の生活と地形……………30</b> 1 世界の大地形と人々の生活……………30 2 山地・平野の地形と人々の生活……………32 3 海岸の地形と人々の生活……………34 4 氷河地形・カルスト地形・乾燥地形と人々の生活……………36	<b>9節 アングロアメリカの生活・文化……………122</b> 1 アングロアメリカの自然環境……………123 2 移民の歴史と多文化社会……………124 3 大規模な農業とアグリビジネス……………126 4 アングロアメリカの鉱工業とその変化……………128 5 アングロアメリカの結びつき……………130
<b>2節 人々の生活と気候……………42</b> 1 生活と気候のかかわり……………42 2 熱帯の気候と人々の生活……………46 3 乾燥帯の気候と人々の生活……………48 4 温帯の気候と人々の生活……………50 5 亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活……………52	<b>10節 ラテンアメリカの生活・文化……………132</b> 1 ラテンアメリカの自然環境……………133 2 混血社会と多様な文化……………134 3 ラテンアメリカの農業とその変化……………136 4 ラテンアメリカの工業と経済発展……………138
<b>3節 人々の生活と産業・文化……………54</b> 1 生活を支える世界の農業……………54 2 生活を支える世界の工業……………56 3 生活と文化のかかわり……………58	<b>11節 オーストラリアの生活・文化……………140</b> 1 オーストラリアとその周辺の自然環境……………141 2 オーストラリアの結びつきの変化……………142 3 自然を生かした輸出中心の産業……………144
<b>3章 世界の諸地域の生活・文化</b>	<b>4章 地球的課題と私たち……………146</b> <b>1節 複雑にからみ合う地球的課題……………146</b> 1 地球的課題の特性とその解決……………146 <b>2節 世界の環境問題……………148</b> 1 さまざまな環境問題……………148 2 熱帯林の破壊とその解決……………150 3 地球温暖化の現状と対策……………152
<b>1節 中国の生活・文化……………60</b> 1 中国の自然環境……………61 2 中国の歴史と社会……………62 3 巨大な人口を支える農業と農民……………64 4 急進する工業と資源・環境問題……………66 5 都市の発展と格差の拡大……………68	
<b>2節 韓国の生活・文化……………70</b> 1 朝鮮半島の自然環境……………71 2 韓国の生活・文化と歴史……………72 3 産業の発展と生活の変化……………74	
<b>3節 東南アジアの生活・文化……………76</b> 1 東南アジアの自然環境……………77	

<b>3節 世界の資源・エネルギー問題……………154</b> 1 限りある資源・エネルギー……………154 2 地域で異なるエネルギー問題……………156	3 目的に合わせた地図の作成……………176
<b>4節 世界の人口問題……………158</b> 1 人口の増加と少子化・高齢化……………158 2 地域で異なる人口問題……………160	<b>2章 日本の自然環境と防災……………178</b> 1 日本の自然環境……………178 2 地震被害と防災……………180 3 火山災害と防災……………186 4 風水害・雪害と防災……………190 5 災害に備える……………196
<b>5節 世界の食料問題……………162</b> 1 飢餓と飽食……………162	<b>3章 身近な地域の課題と地域調査……………198</b> 1 調査テーマの設定……………198 2 現地調査の実施と分析……………201 3 調査結果のまとめと発表……………204
<b>6節 世界の都市・居住問題……………164</b> 1 都市への人口集中と諸問題……………164 2 地域で異なる都市・居住問題……………166	さくいん……………206 世界の家畜・鉱産物・農産物……………巻末1 世界の水資源をめぐる問題……………巻末4
<b>2部 身近な地域の課題</b>	
<b>1章 身近にあるさまざまな地図……………172</b> 1 身近な地図とその特色……………172 2 GISのしくみと支える技術……………172	

**日本とのかわり** さまざまな地域と日本の、貿易や文化などを通じたかわりを紹介するコラム。

日本の食を支える中国の野菜……………65	企業活動や貿易で強く結びついたEUと日本……………115
緊密さを増す中国と日本の経済関係……………69	結びつきを強める資源大国ロシアと日本……………121
経済連携と相互交流を深める韓国と日本……………75	文化・経済・政治で強く結びついたアメリカ合衆国と日本……………131
日本市場向けのバナナ栽培がさかんなフィリピン……………81	ラテンアメリカの日系人……………135
経済連携を深めるASEAN 諸国と日本……………85	日本が協力したセラードの農業開発……………137
南アジア市場に進出する日本企業……………91	人的交流が深まるオーストラリアと日本……………143
石油と技術で結びついた中東諸国と日本……………97	安全な肉牛生産の取り組み……………145
支え合うアフリカと日本……………103	

**技能をみがく19** ~本書で扱う地理的技能~  
地理学習には欠かせない、とくに重要な技能についてまとめたコーナー。この教科書では、地図・グラフの読み取り方やつくり方、写真の読み取り方などの地理的技能を、学習内容に合わせて配置している。また、地理的技能を習得するために、具体的な作業を示した「トライ」や「作業」を各所に設けている。

1 時差の計算……………7	11 さまざまな地図の収集と活用……………171
2 略地図の描き方……………14	12 身近なGPSやGISの活用……………174
3 統計資料のグラフ化……………15	13 電子国土基本図の利用方法……………175
4 統計地図の見方とつくり方……………16	14 電子地形図25000の利用方法……………177
5 統計地図の比較……………20	15 津波被害を地形図でとらえる……………183
6 地形図の利用……………38	16 ハザードマップの見方……………189
7 地形図からみた地形……………40	17 災害の危険度を新旧の地形図比較でとらえる……………193
8 雨温図・ハイサーグラフの見方……………44	18 新旧の地形図の比較……………200
9 写真の読み取り方……………45	19 プレゼンテーションソフトを活用した発表……………205
10 人口ピラミッドの読み方……………159	

**【本書を使うにあたって】**  
○国名は、ほとんど略称を用いている。おもな略称は以下のとおり。  
中国(中華人民共和国)／ロシア(ロシア連邦)／韓国(大韓民国)／北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)  
○国の形や各資料図には、未確定の領域を含めていない。

## 「クローズアップ」コラム一覧

学習内容に関連したテーマや、地域の新しい動きを紹介するコラム

タイトル	ページ
経済連携協定(EPA)の課題	23
アジアのハブ空港	25
発展途上国における携帯電話の普及	27
難民問題	29
プレートテクトニクス	31
サンゴ礁	35
高山気候	53
遺伝子組み換え作物の広がり	55
スコットランドの独立を問う住民投票	59
台湾の動向	67
北朝鮮の動向	73
カシミール問題	89
パレスチナ問題	95
EUが取り組む食品の品質認証制度	111
国際分業で製造されるヨーロッパの航空機	113
グローバル化による感染症の拡大	147
サヘル砂漠化	149
開発が進むシェールガス	155
日本の食料問題	163
見直される公共交通機関	165
リモートセンシングの応用	173
地震と津波はなぜ起こるのか?	181
災害の教訓を地域で語り継ぐ	197

## 「ところ変われば」コラム一覧 さまざまな文化を紹介するコラム

地域	タイトル	ページ
中国	公園には大人がいっぱい	68
韓国	韓国のインターネット事情	72
東南アジア	罰金制度が厳しいシンガポール	82
南アジア	世界一の映画大国、インド	89
中央アジア・西アジア・北アフリカ	イスラームの暦	97
サハラ以南のアフリカ	カラフルな女性の腰布	101
ヨーロッパ	街かどで見かけるアイコン	107
ロシア	ロシアの別荘、ダーチャ	120
アングロアメリカ	高校にも生徒用駐車場	125
ラテンアメリカ	サッカー王国、ブラジル	139
オーストラリア	試合前にはマオリの踊りを	143

### 地誌分野

計86  
ページ

東アジア(中国)からオセアニア(オーストラリア)まで、世界の諸地域を完全網羅!  
※平成25年度版教科書より8ページ増

### 系統地理分野

計30  
ページ

地形・気候に加え、産業や貿易なども世界全体の傾向を把握できる!

### 防災分野

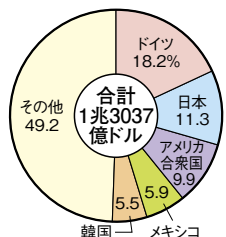
計20  
ページ

概論と事例の組み合わせで、日本で起こりやすい災害・防災を学べる!

## ① カラーユニバーサルデザインに配慮した見やすくわかりやすい色調

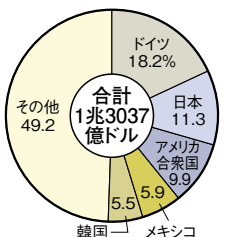
■色覚特性をもつ生徒が同じように見えてしまう色を隣どうしに配置しないことや、境界線を黒ではっきりと書くことで、グラフなどの資料を読み取りやすくしています。

カラーユニバーサルデザインに配慮した図

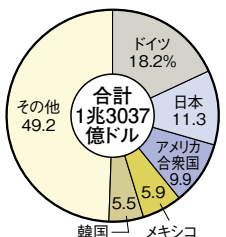


▲ p.113 ⑤世界の自動車の輸出国

D型\*色覚の人の見え方



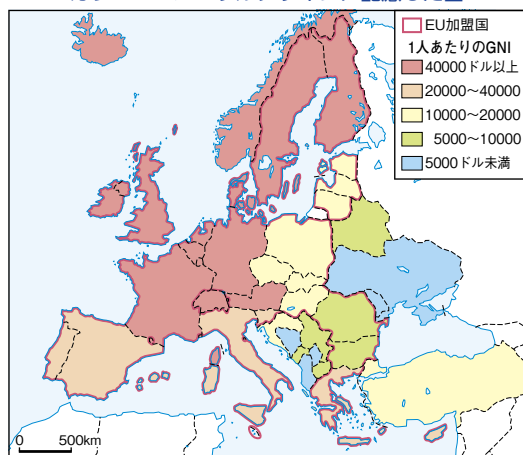
P型\*色覚の人の見え方



\*色覚特性のD型とP型は、特性のなかでも代表的なものです。上下の図は、それらの色覚特性をもつ人の色の見え方をシミュレーションしたものです。

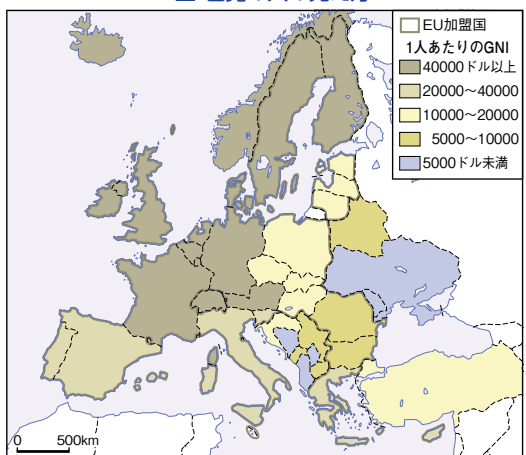
■地図についても、色覚特性をもつ生徒も識別しやすい色を使って配色しています。

カラーユニバーサルデザインに配慮した図



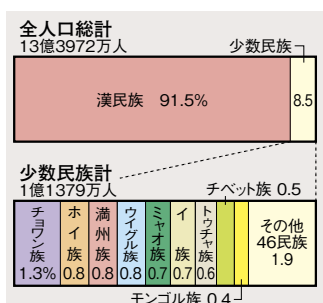
▲ p.114 ①ヨーロッパの経済格差

D型\*色覚の人の見え方



## ② 読み取りやすい図版表現

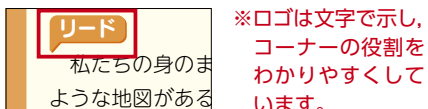
■図の周囲をグレーで囲むことで、どこまでが同一の資料であるのか、わかりやすくしています。また、図の周囲を暗くすることで色のちらつきを抑え、読み取りに集中できるようにしています。右の図の場合、二つの帯グラフがまとまって一つの資料を構成することがわかります。



▲ p.62 ③中国の民族構成

## ③ 学習が進めやすい工夫

■導入資料や図版・写真、リードやチェックの設問を各ページと同じ場所に配置し、見開きのレイアウトを原則統一することで、スムーズに学習を進められるようにしています。



※ロゴは文字で示し、コーナーの役割をわかりやすくしています。

本資料p.22-23で詳しく紹介!

## ④ 読みやすく誤読を防ぐ文字

■教科書の見開きタイトル、本文、図版タイトルなどには、ユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用しています。これにより、文章が読みやすくなり、誤読を防げるようにしています。

UDフォント

ステップとよばれる草原や砂漠が広がって

- ・ふりがなはゴシック体にして見やすくしています。
- ・濁点部分のすきを充分確保して視認性を高めています。
- ・横画を太くすることで、視認性を高めています。

教師用指導書、指導者用デジタル教材、準拠ノートなど、地理授業の周辺教材を充実させ、万全のサポート体制を整えております。弊社「高校教科書・副教材カタログ」および、「高等学校 指導者用商品・サポート案内」に詳細情報を掲載しています。あわせてご覧ください。



ご審査用見本または部分サンプルをご用意しています。弊社までご連絡ください。

### 高等学校 新地理A 指導資料 DVD-ROM付

- ・①指導用教科書(朱書き)、②研究編、③教科書関連データDVD-ROMを収録しています。 ※①は単品販売もあります。下記参照。
- ・パスワード認証の「webサポート」をご利用いただけます。

### 高等学校 新地理A 指導用教科書(朱書き) **新企画**

- ・教科書の見開き単位で、本文や図版・写真の解説、板書例などを掲載。ご専門外の先生にも手軽にお使いいただけます!



### 指導者用デジタル教科書ベーシック版 高等学校 新地理A **サンプル**

- ・教科書本体の誌面をはじめ、掲載図版ごとのデジタルデータを収録しています。

### 指導者用デジタルコンテンツ集 地理(Windows版・iOS版)

### 学習者用デジタルコンテンツ集 地理(iOS版)

- ・地形や気候、緯度・経度、農業・工業など地理学習に必須のデジタル図版、統計データなどを収録しています。デジタル教科書と組み合わせるとさらに便利にお使いいただけます。



### 高等学校 新地理Aノート **見本**

- ・色塗りなどの作業を通して地理の見方・考え方が身につきます。
- ・地図を豊富に用いた「作業」と知識を整理する「確認」で、学習内容を習得できます。 ※ご採用校には赤刷り「教師用解答・解説」をご用意しています! **新企画**

### ウェブ サイト

- ・最新の統計・資料・写真など豊富なコンテンツを収録しています。 ⇒<http://www.teikokushoin.co.jp/>

### 定期冊子

### 地理・地図資料

- ・年4回無料でご希望の先生にお届けしています。ご希望の方は、弊社までご連絡ください。一部バックナンバーもご用意しています。

## 地理A教科書・地理B教科書・地理副教材のラインアップ



高校生の地理A (地A-312)



新詳地理B (地B-304)



新詳地理資料 COMPLETE



図説地理資料 世界の諸地域NOW



新詳資料 地理の研究

## <特色一覧>

※本資料および下記の表データは弊社ウェブサイトにて閲覧・ダウンロードできます。

項目	特色
総合的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 豊富な写真や図表、グラフなどの統計資料と因果関係のわかる本文を通して、<b>地理的な見方・考え方</b>を習得できる。</li> <li>◆ <b>最新の具体事例</b>を多く扱うことで興味・関心を高め、理解を深める工夫がなされている。</li> <li>◆ 世界各地の生活・文化の特色や現代社会が抱える諸課題を学ぶことで<b>異文化理解</b>につながる教科書になっている。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 世界の全地域を、学習効果の高い写真・図版や豊富な具体事例で学習できるよう工夫されている。</li> <li>・ 第1部1章「地球儀や地図からとらえる現代世界」では、以降の地理学習の基盤となるよう、<b>地理を学ぶ意義</b>を確認しながら、学習できるようになっている。</li> <li>・ 第1部2章「人間生活を取り巻く環境」では、<b>写真や模式図</b>などの資料と<b>かみくだいた本文</b>で、世界の多様な自然や生活・文化について理解できるようになっている。</li> <li>・ 第1部3章「世界の諸地域の生活・文化」では、世界各地の生活・文化の特色をとらえる上で、<b>学習効果の高い写真・図版</b>や<b>最新の事例</b>が数多く扱われており、生徒の興味・関心を高める工夫がなされている。また<b>世界全地域をカバー</b>している。</li> <li>・ 第1部4章「地球的課題と私たち」では、地球規模の課題とその解決に向けた取り組みについて考察できるようになっている。</li> <li>・ 第2部1章「身近にあるさまざまな地図」では、<b>地図や地理情報システム(GIS)</b>などにかかわる<b>地理的技能</b>が身につくようになっている。</li> <li>・ 第2部2章「日本の自然環境と防災」では、<b>災害発生メカニズム</b>や特徴から<b>具体事例による防災対策</b>まで総合的に学ぶことができ、災害発生時に自らがとるべき行動を能動的に考えることができる。</li> <li>・ 第2部3章「身近な地域の課題と地域調査」では、身近な地域の課題を、観察や調査・見学などを通じて捉え、<b>持続可能な社会</b>をつくる方法を探究することができる。</li> <li>・ 特設コラム「<b>日本とのかかわり</b>」では、貿易や文化を切り口に日本とのかかわりを通じて各地の姿がとらえやすくなっている。</li> <li>・ 特設コーナー「<b>技能をみがく</b>」では、地理学習に欠かせない重要な技能がまとめられ、地理的技能を着実に習得し、<b>地理的な見方・考え方</b>が身につくようになっている。</li> <li>・ 全編を通じて、<b>独自取材の写真</b>など世界の最新情報がふんだんに盛り込まれ、実感を伴った学習ができるようになっている。</li> </ul>
構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 導入資料→リード(学習課題)→展開→チェック(まとめ)で効果的に学習できるよう工夫されている。</li> <li>・ 発展的な内容も学習できるように、側注欄の解説や資料、特設コーナーが充実している。</li> <li>・ 原則、<b>1時間1見開き</b>となっているので、分量が適量で学習計画を立てやすくなっている。</li> <li>・ 見開きごとに、<b>導入資料→リード(学習課題)→展開→チェック(まとめ)</b>の流れが明確になっている。</li> <li>・ <b>導入資料</b>は、世界各地の地域性がイメージしやすくなっている。</li> </ul>
表記・表現および使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ユニバーサルデザインに配慮した表記・表現がなされている。</li> <li>・ 本文行間には、関連する事項が扱われているページの<b>参照ページ</b>や関連図版・写真の<b>図番号</b>が割り当てられている。</li> <li>・ グラフなどの<b>統計資料</b>は、<b>新しいデータ</b>が使用されている。</li> <li>・ 本文や側注、キャプションなどの文字は、<b>ユニバーサルデザインフォント(UDフォント)</b>が使用されている。</li> <li>・ <b>カラーユニバーサルデザイン</b>に配慮されており、色覚特性のある生徒にも読み取りやすい表現になっている。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 写真や図版が映える、<b>発色の良いコート紙</b>が使用されている。</li> <li>・ 1年以上の使用に耐えるよう、<b>堅牢な製本</b>になっている。</li> <li>・ 環境に配慮した<b>再生紙</b>と<b>植物油インキ</b>が使用されている。</li> <li>・ 指導書や準拠ノートをはじめ、<b>充実した周辺教材</b>が準備されており、教科書との併用で効果的な学習ができる。</li> </ul>

## <著作者>

荒井 良雄 (東京大学 教授)

◆人文地理学

加賀美 雅弘 (東京学芸大学 教授)

◆ヨーロッパ地誌・社会地理学

佐藤 哲夫 (駒澤大学 教授)

◆東南アジア地誌

小島 泰雄 (京都大学 教授)

◆中国地誌・農村地理学

小口 高 (東京大学 教授)

◆地形学・GIS

堤 純 (筑波大学 准教授)

◆オーストラリア地誌・都市地理学・GIS

仁平 尊明 (北海道大学 准教授)

◆農業地理学・アメリカ地誌

大山 修一 (京都大学 准教授)

◆アフリカ地誌・環境地理学

## <別記著作者>

松本 淳 (首都大学東京 教授)

◆気候学

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29

TEL 03-3262-0831

URL <http://www.teikokushoin.co.jp/>

※本資料の掲載ページには、編集中的のものも含まれます。◎